

徳川林政史研究所蔵

旧蓬左文庫所蔵史料目録(中)

番 号 表 題

哭―二 礼儀類典

刊 写 年

江 戸 写

著 者 (作 成 者)

徳川光圀(編)

蔵 書 印

蓬 左 A

形 態

縦 三 四 〇

数 量

*総目録一冊・本編三三八冊・図絵一冊からなる。本編は宮中の年中行事を記した「恒例」(第一三六冊まで)と「臨時」(第一三七冊以降)の二つの部分に大別される。

第一冊	総目録	第二冊	序 凡例・引書 卷第一(四方拝)
第三冊	卷第二(供御菓) 卷第三(朝賀)	第四冊	卷第四(小朝拝一) 卷第五(小朝拝二)
第五冊	卷第六(拝礼一) 卷第七(拝礼二)	第六冊	卷第八(拝礼三) 卷第九(戴餅・御齒固)
第七冊	卷第十(元日節会一) 卷第十一(元日節会二)	第八冊	卷第十二(元日節会三) 卷第十三(元日節会四)
第九冊	卷第十四(元日節会五) 卷第十五(元日節会六)	第一〇冊	卷第十六(元日節会七) 卷第十七(元日節会八)
第十一冊	卷第十八(朝覲行幸一)	第十二冊	卷第十九(朝覲行幸二)
第十三冊	卷第二十(朝覲行幸三) 卷第二十一(二宮大饗・殿上淵酔)	第十四冊	卷第二十二(臨時客一) 卷第二十三(臨時客二)
第十五冊	卷第二十四(臣家大饗一) 卷第二十五(臣家大饗二)	第十六冊	卷第二十六(臣家大饗三) 卷第二十七(叙位一)
第十七冊	卷第二十八(叙位二) 卷第二十九(叙位三)	第十八冊	卷第三十(叙位四) 卷第三十一(叙位五)
第十九冊	卷第三十二(叙位六) 卷第三十三(叙位七)	第二十冊	卷第三十四(叙位八) 卷第三十五(叙位九)
第二二冊	卷第三十六(叙位十) 卷第三十七(白馬節会一)	第二三冊	卷第三十八(白馬節会二) 卷第三十九(白馬節会三)
第二五冊	卷第四十(白馬節会四) 卷第四十一(白馬節会五)	第二四冊	卷第四十二(白馬節会六) 卷第四十三(白馬節会七)
第二七冊	卷第四十八(白馬節会十二) 卷第四十九(白馬節会十三)	第二六冊	卷第四十六(白馬節会十) 卷第四十七(白馬節会十一)
第二九冊	卷第五十二(御齋会三) 卷第五十三(真言院御修法・太元師法)	第二八冊	卷第五十(御齋会一) 卷第五十一(御齋会二)
第三一冊	卷第五十五(県召徐目一) 卷第五十六(県召徐目二)	第三〇冊	卷第五十四(女王祿・女叙位)
第三三冊	卷第五十九(県召徐目五)	第三二冊	卷第五十七(県召徐目三) 卷第五十八(県召徐目四)
第三五冊	卷第六十一(県召徐目七) 卷第六十二(県召徐目八)	第三四冊	卷第六十(県召徐目六)
第三七冊	卷第六十四(県召徐目十)	第三六冊	卷第六十三(県召徐目九)
第三九冊	卷第六十六(県召徐目十二)	第三八冊	卷第六十五(県召徐目十二)
第四一冊	卷第六十八(県召徐目十四) 卷第六十九(県召徐目十五)	第四〇冊	卷第六十七(県召徐目十三)
		第四二冊	卷第七十(県召徐目十六) 卷第七十一(県召徐目十七)

番 号 表 題

刊 写 年

著 者 (作 成 者)

蔵 書 印

形 態

数 量

第四三冊	卷第七十二(県召徐目十八)	卷第七十三(県召徐目十九)	第四四冊	卷第七十四(県召徐目二十)	卷第七十五(県召徐目二十一)
第四五冊	卷第七十六(兵部省手番・御薪)	卷第七十七(踏歌節会二)	卷第七十八(踏歌節会三)		
第四六冊	卷第七十九(踏歌節会二)	卷第八十(踏歌節会四)	第四七冊	卷第八十一(踏歌節会五)	卷第八十二(踏歌節会六)
第四八冊	卷第八十三(踏歌節会七)	卷第八十四(射礼)	第四九冊	卷第八十五(賭弓二)	卷第八十六(賭弓三)
第五〇冊	卷第八十七(賭弓三)	卷第八十八(仁寿殿観音供・内宴・転輪院法会・卯杖)	卷第八十九(院尊勝陀羅尼供養)		
第五一冊	卷第九十(外記政始一)	卷第九十一(外記政始二)			
第五二冊	卷第九十二(古書奏)	卷第九十三(祈年祭一)	卷第九十四(祈年祭二)		
第五三冊	卷第九十五(列見)		第五四冊	卷第九十六(円宗寺最勝会)	卷第九十七(釈奠)
第五五冊	卷第九十八(春日祭一)	卷第九十九(春日祭二)	第五六冊	卷第一百(春日祭三)	卷第一百一(園井韓神祭)
第五七冊	卷第一百二(祈年穀奉幣一)	卷第一百三(祈年穀奉幣二)	第五八冊	卷第一百四(祈年穀奉幣三)	
第五九冊	卷第一百五(春季仁王会)		第六〇冊	卷第一百六(春季御読経一)	卷第一百七(春季御読経二)
第六一冊	卷第一百八(法勝寺千僧御読経)	卷第一百九(位禄定)	卷第一百十(御燈・御節供)		
第六二冊	卷第一百十一(曲水宴)	卷第一百十二(法勝寺御念仏・尊勝寺灌頂)	卷第一百十三(石清水臨時祭一)		
第六三冊	卷第一百十四(石清水臨時祭二)	卷第一百十五(石清水臨時祭三)	第六四冊	卷第一百十六(石清水臨時祭四)	
第六五冊	卷第一百十七(更衣・孟夏旬・擬階奏)		第六六冊	卷第一百十八(灌仏)	
第六七冊	卷第一百十九(稲荷祭・平野祭・松尾祭)		第六八冊	卷第一百二十(梅宮祭・吉田祭・日吉祭)	
第六九冊	卷第一百二十一(撰関賀茂詣一)		第七〇冊	卷第一百二十二(撰関賀茂詣二)	
第七一冊	卷第一百二十三(賀茂祭一)	卷第一百二十四(賀茂祭二)	第七二冊	卷第一百二十五(賀茂祭三)	卷第一百二十六(賀茂祭四)
第七三冊	卷第一百二十七(賀茂祭五)	卷第一百二十八(賀茂祭六)	第七四冊	卷第一百二十九(賀茂祭七)	卷第一百三十(賀茂祭八)
第七五冊	卷第一百三十一(賀茂祭九)				
第七六冊	卷第一百三十二(法勝寺三十講)	卷第一百三十三(左右近衛荒手番・菖蒲薬玉并御節供・左右近衛騎射真手結)			
第七七冊	卷第一百三十四(円宗寺御八講)	卷第一百三十五(新日吉小五月会・紫野今宮祭)	卷第一百三十六(最勝講一)		
第七八冊	卷第一百三十七(最勝講二)		第七九冊	卷第一百三十八(最勝講三)	
第八〇冊	卷第一百三十九(最勝講四)	卷第一百四十(定賑給使・著欽政・帶刀騎射)			

- 第八一冊 卷第四百十一(造酒司獻體酒・延曆寺六月会・御體御卜奏) 第八二冊 卷第四百十二(月次祭・神今食)
- 第八三冊 卷第四百十三(祇園御靈会・祇園臨時祭) 卷第四百十四(円教寺御八講・法興院八講) 卷第四百十五(大赦・節折)
- 第八四冊 卷第四百十六(施米・雷鳴陣) 卷第四百十七(最勝寺御八講・法勝寺御八講)
- 第八五冊 卷第四百十八(御節供・乞巧奠)
- 第八六冊 卷第四百十九(最勝光院御八講・諸寺孟蘭盆講并御盆供・尊勝寺御八講)
- 第八七冊 卷第四百二十(相撲一) 第八八冊 卷第四百二十一(相撲二)
- 第八九冊 卷第四百二十一(相撲三) 卷第四百二十三(祈年穀奉幣一) 第九〇冊 卷第四百二十四(祈年穀奉幣二)
- 第九一冊 卷第四百五十五(秋季仁王会) 卷第四百五十六(秋季御読経)
- 第九二冊 卷第四百五十七(八朔風俗) 卷第四百五十八(北野祭) 卷第四百五十九(御国忌) 卷第四百六十(定考一)
- 第九三冊 卷第四百六十一(定考二) 第九四冊 卷第四百六十二(石清水放生会一)
- 第九五冊 卷第四百六十三(石清水放生会二) 第九六冊 卷第四百六十四(駒引)
- 第九七冊 卷第四百六十五(釈奠一) 第九八冊 卷第四百六十六(釈奠二)
- 第九九冊 卷第四百六十七(所充) 卷第四百六十八(御燈) 第一〇〇冊 卷第四百六十九(不堪佃田奏一)
- 第一〇一冊 卷第四百七十(不堪佃田奏二) 卷第四百七十一(不堪佃田奏三) 第一〇二冊 卷第四百七十二(重陽宴)
- 第一〇三冊 卷第四百七十三(伊勢例幣)
- 第一〇四冊 卷第四百七十四(京官除目一) 卷第四百七十五(京官除目二) 第一〇五冊 卷第四百七十六(京官除目三)
- 第一〇六冊 卷第四百七十七(京官除目四) 第一〇七冊 卷第四百七十八(京官除目五)
- 第一〇八冊 卷第四百七十九(京官除目六) 卷第四百八十(京官除目七) 第一〇九冊 卷第四百八十一(京官除目八)
- 第一一〇冊 卷第四百八十二(更衣・孟冬旬一) 卷第四百八十三(孟冬旬二) 第一一一冊 卷第四百八十四(弓場始)
- 第一一二冊 卷第四百八十五(興福寺維摩会・東寺灌頂) 卷第四百八十六(法勝寺大乘会)
- 第一一三冊 卷第四百八十七(内藏寮進餅・大粮申文・初雪見参) 卷第四百八十八(朔日冬至一)
- 第一一四冊 卷第四百八十九(朔日冬至二・御曆奏)
- 第一一五冊 卷第四百九十(相嘗祭) 卷第四百九十一(春日祭一)
- 第一一六冊 卷第四百九十二(春日祭二) 第一一七冊 卷第四百九十三(春日祭三)
- 第一一八冊 卷第四百九十四(春日祭四) 第一一九冊 卷第四百九十五(平野祭・梅宮祭・大原野祭)
- 第一二〇冊 卷第四百九十六(園并韓神祭・鎮魂祭) 第一二一冊 卷第四百九十七(新嘗祭并豊明節会一)

数量

第二二二冊	卷百九十八(新嘗祭并豐明節会二)	第二二三冊	卷第百九十九(新嘗祭并豐明節会三)
第二二四冊	卷第二百(新嘗祭并豐明節会四)	第二二五冊	卷第二百一(新嘗祭并豐明節会五)
第二二六冊	卷第二百二(新嘗祭并豐明節会六)		
第二二七冊	卷第二百三(新嘗祭并豐明節会七)	第二二九冊	卷第二百七(賀茂臨時祭三)
第二二八冊	卷第二百五(賀茂臨時祭一)	第三一〇冊	卷第二百九(御體御卜奏・月次祭)
第三〇〇冊	卷第二百八(法成寺八講)	第三一三冊	卷第二百十一(荷前并元日擬侍從定)
第三一二冊	卷第二百十(神今食)	第三三五冊	卷第二百十三(追儺)
第三三四冊	卷第二百十二(最勝寺灌頂・御仏名)		卷第二百十四(円宗寺法華会)
第三三六冊	卷第二百十五(内侍所御神楽)		
第三三七冊	卷第二百十六(伊勢公卿勅使一)		
第三三八冊	卷第二百十八(伊勢公卿勅使三)	卷第二百二十(伊勢公卿勅使五)	
第三九冊	卷第二百二十一(伊勢齋宮一)	第一四〇冊	卷第二百二十三(初齋院一)
第一四一冊	卷第二百二十五(初齋院三)	第一四二冊	卷第二百二十七(祈雨二)
	卷第二百二十六(祈雨一)		卷第二百二十八(止雨一)
第一四三冊	卷第二百二十九(止雨二)		
	卷第二百三十(宇佐使)		
第一四四冊	卷第二百三十一(神位)		
	卷第二百三十二(内侍所臨時御神楽)		
第一四五冊	卷第二百三十四(諸社奉幣二)		
	卷第二百三十五(諸社奉幣三)		
第一四六冊	卷第二百三十六(諸社奉幣四)		
	卷第二百三十七(諸社遷宮一)		
第一四七冊	卷第二百三十九(大極殿臨時仁王念)		
	卷第二百四十(臨時御読経二)		
第一四八冊	卷第二百四十二(臨時御八講一)		
	卷第二百四十三(臨時御八講二)		
第一四九冊	卷第二百四十四(臨時御八講三)		
	卷第二百四十五(臨時御修法)		
第一五〇冊	卷第二百四十六(諸寺堂供養一)	第一五一冊	卷第二百四十七(諸寺堂供養二)
第一五一冊	卷第二百四十八(諸寺堂供養三)		
第一五三冊	卷第二百四十九(諸寺堂供養四)	第一五四冊	卷第二百五十一(諸寺堂供養六)
第一五五冊	卷第二百五十二(諸寺堂供養七)		
	卷第二百五十三(諸寺堂供養八)		

第一五六冊 卷第二百五十四(諸寺堂供養九) 卷第二百五十五(諸寺堂供養十)

第一五七冊 卷第二百五十六(御讓位一)

第一五九冊 卷第二百五十八(御讓位三)

第一六一冊 卷第二百六十(御讓位五)

第一六三冊 卷第二百六十二(御讓位七)

第一六五冊 卷第二百六十四(御即位二)

第一六七冊 卷第二百六十六(御即位四)

第一六九冊 卷第二百六十八(御即位六)

第一七一冊 卷第二百七十(御即位八)

第一七二冊 卷第二百七十二(御即位十)

第一七五冊 卷第二百七十四(万機旬) 卷第二百七十五(大嘗会一)

第一七七冊 卷第二百七十七(大嘗会三)

第一七九冊 卷第二百七十九(大嘗会五)

第一八一冊 卷第二百八十一(大嘗会七)

第一八三冊 卷第二百八十三(大嘗会九)

第一八五冊 卷第二百八十五(大嘗会十一)

第一八七冊 卷第二百八十七(大嘗会十三)

第一八九冊 卷第二百八十九(大嘗会十五)

第一九一冊 卷第二百九十一(大嘗会十七)

第一九三冊 卷第二百九十三(大嘗会十九)

第一九五冊 卷第二百九十五(一代一度仁王会・仏舍利)

第一九七冊 卷第二百九十七(行幸二)

第一九九冊 卷第二百九十九(行幸四) 卷第三百(行幸五)

第二〇一冊 卷第三百三(行幸八)

第二〇三冊 卷第三百五(行幸十)

第一五八冊 卷第二百五十七(御讓位二)

第一六〇冊 卷第二百五十九(御讓位四)

第一六二冊 卷第二百六十一(御讓位六)

第一六四冊 卷第二百六十三(御即位一)

第一六六冊 卷第二百六十五(御即位三)

第一六八冊 卷第二百六十七(御即位五)

第一七〇冊 卷第二百六十九(御即位七)

第一七二冊 卷第二百七十一(御即位九)

第一七四冊 卷第二百七十三(御即位十一)

第一七六冊 卷第二百七十六(大嘗会二)

第一七八冊 卷第二百七十八(大嘗会四)

第一八〇冊 卷第二百八十(大嘗会六)

第一八二冊 卷第二百八十二(大嘗会八)

第一八四冊 卷第二百八十四(大嘗会十)

第一八六冊 卷第二百八十六(大嘗会十二)

第一八八冊 卷第二百八十八(大嘗会十四)

第一九〇冊 卷第二百九十(大嘗会十六)

第一九二冊 卷第二百九十二(大嘗会十八)

第一九四冊 卷第二百九十四(大奉幣・八十島祭)

第一九六冊 卷第二百九十六(行幸一)

第一九八冊 卷第二百九十八(行幸三)

第二〇〇冊 卷第三百一(行幸六) 卷第三百二(行幸七)

第二〇二冊 卷第三百四(行幸九)

第二〇四冊 卷第三百六(行幸十一)

番号表題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態

数量

第二〇六冊	卷第三百七(行幸十二)	卷第三百八(行幸十三)	第二〇六冊	卷第三百九(行幸十四)	卷第三百十(行幸十五)		
第二〇七冊	卷第三百十一(遷幸諸所一)	卷第三百十二(遷幸諸所二)	第二〇八冊	卷第三百十三(遷宮一)			
第二〇九冊	卷第三百十四(遷宮二)		第二一〇冊	卷第三百十五(遷宮三)			
第二一一冊	卷第三百十六(造宮并修理一)	卷第三百十七(造宮并修理二)	第二一二冊	卷第三百十八(御元服一)	卷第三百十九(御元服二)		
第二二三冊	卷第三百二十(御元服三)		第二二四冊	卷第三百二十一(御元服四)			
第二二五冊	卷第三百二十二(御元服五)		第二二六冊	卷第三百二十三(御元服六)			
第二二七冊	卷第三百二十四(御元服七)	卷第三百二十五(御元服八)	第二二九冊	卷第三百二十八(御元服十一)			
第二二八冊	卷第三百二十六(御元服九)	卷第三百二十七(御元服十)	第二三一冊	卷第三百三十一(御元服十四)			
第二三〇冊	卷第三百二十九(御元服十二)	卷第三百三十(御元服十三)					
第二三二冊	卷第三百三十二(御元服十五)	卷第三百三十三(御元服十六)					
第二三三冊	卷第三百三十四(御元服十七)	卷第三百三十五(御元服十八)					
第二三四冊	卷第三百三十六(御元服十九)	卷第三百三十七(御元服二十)					
第二三五冊	卷第三百三十八(御元服二十一)		第二三六冊	卷第三百三十九(御元服二十二)			
第二三七冊	卷第三百四十(御元服二十三)		第二三八冊	卷第三百四十一(御読書始)	卷第三百四十二(立后一)		
第二三九冊	卷第三百四十三(立后二)		第二三〇冊	卷第三百四十四(立后三)			
第二三一冊	卷第三百四十五(立后四)	卷第三百四十六(立后五)	第二三二冊	卷第三百四十七(立太子一)			
第二三三冊	卷第三百四十八(立太子二)		第二三四冊	卷第三百四十九(皇太子著袴一)			
第二三五冊	卷第三百五十(皇太子著袴二)	卷第三百五十一(行啓一)					
第三三六冊	卷第三百五十二(行啓二)	卷第三百五十三(御産一)	第三三七冊	卷第三百五十四(御産二)			
第三三八冊	卷第三百五十五(御産三)		第三三九冊	卷第三百五十六(御産四)			
第三四〇冊	卷第三百五十七(御産五)		第三四一冊	卷第三百五十八(御産六)			
第三四二冊	卷第三百五十九(御産七)		第三四三冊	卷第三百六十(御産八)			
第三四四冊	卷第三百六十一(女御入内一)		第三四五冊	卷第三百六十二(女御入内二)			
第三四六冊	卷第三百六十三(女御入内三)						

- 第二四七冊 卷第三百六十四(詔書并覆奏) 卷第三百六十五(講書并弓場殿試) 卷第三百六十六(改元一)
第二四八冊 卷第三百六十七(改元二) 卷第三百六十八(改元三) 第二四九冊 卷第三百六十九(改元四) 卷第三百七十(改元五)
第二五〇冊 卷第三百七十一(改元六) 卷第三百七十二(陳申文・陳覽內文・位記請印)
第二五一冊 卷第三百七十三(陳定一)
第二五三冊 卷第三百七十六(陳定四)
第二五五冊 卷第三百七十八(外記政一) 卷第三百七十九(外記政二)
第二五七冊 卷第三百八十一(外記政四)
第二五九冊 卷第三百八十三(官政) 卷第三百八十四(任大臣一)
第二六一冊 卷第三百八十七(任大臣四)
第二六三冊 卷第三百八十九(任大臣六) 卷第三百九十(任大臣七)
第二六五冊 卷第三百九十三(任大臣十)
第二六六冊 卷第三百九十四(任大臣十二) 卷第三百九十五(任大臣十二)
第二六八冊 卷第三百九十八(軒廊御卜上) 卷第三百九十九(軒廊御卜中)
第二七〇冊 卷第四百一(天文密奏上) 卷第四百二(天文密奏下)
第二七二冊 卷第四百五(准后宣下) 卷第四百六(撰政関白宣下上)
第二七四冊 卷第四百八(征夷大將軍宣下) 卷第四百九(源氏長者并淳和奨學兩院別当宣下)
卷第四百十二(補檢非違使)
第二七五冊 卷第四百十三(上表上)
第二七七冊 卷第四百十四(上表下)
第二七九冊 卷第四百十七(御讓国後雜事二) 卷第四百十八(御讓国後雜事三)
第二八一冊 卷第四百二十一(御幸三)
第二八二冊 卷第四百二十二(御幸四) 卷第四百二十三(御幸五) 卷第四百二十四(御幸六)
第二八三冊 卷第四百二十五(御幸七) 卷第四百二十六(御幸八)
第二八五冊 卷第四百二十九(御幸十二) 卷第四百三十(御幸十二)
第二八七冊 卷第四百三十三(御難染一)
卷第三百六十六(改元一)
卷第三百六十九(改元四) 卷第三百七十(改元五)
卷第三百七十四(陳定二) 卷第三百七十五(陳定三)
卷第三百七十七(官奏)
卷第三百八十(外記政三)
卷第三百八十二(外記政五)
卷第三百八十五(任大臣二) 卷第三百八十六(任大臣三)
卷第三百八十八(任大臣五)
卷第三百九十一(任大臣八) 卷第三百九十二(任大臣九)
卷第三百九十六(任大將上) 卷第三百九十七(任大將下)
卷第四百(軒廊御卜下)
卷第四百三(諸宣旨) 卷第四百四(親王宣下)
卷第四百七(撰政関白宣下下)
卷第四百十(牛車并輦車宣下) 卷第四百十一(兵仗宣下)
卷第四百十四(上表中)
卷第四百十六(御讓国後雜事一)
卷第四百十九(御幸一) 卷第四百二十(御幸二)
卷第四百二十七(御幸九) 卷第四百二十八(御幸十)
卷第四百三十一(院号一) 卷第四百三十二(院号二)
卷第四百三十四(御難染二) 卷第四百三十五(御授戒)

番 号 表 題

刊 写 年

著 者 (作 成 者)

蔵 書 印

形 態

数 量

第二八九冊	卷第四百三十六(皇子入室)	第二九〇冊	卷第四百三十七(任僧綱一)	卷第四百三十八(任僧綱二)
第二九一冊	卷第四百三十九(臨時除目一)	第二九二冊	卷第四百四十(臨時除目二)	
第二九三冊	卷第四百四十一(臨時除目三)	第二九四冊	卷第四百四十二(臨時除目四)	
第二九五冊	卷第四百四十三(臨時除目五)	第二九六冊	卷第四百四十四(拝賀一)	
第二九七冊	卷第四百四十五(拝賀二)	第二九八冊	卷第四百四十六(拝賀三)	卷第四百四十七(拝賀四)
第二九九冊	卷第四百四十八(拝賀五)			
第三〇〇冊	卷第四百五十一(拝賀八)	第三〇一冊	卷第四百五十二(拝賀九)	
第三〇二冊	卷第四百五十三(拝賀十)	第三〇三冊	卷第四百五十五(著陣一)	卷第四百五十六(著陣二)
第三〇四冊	卷第四百五十七(直衣始)	第三〇五冊	卷第四百五十九(童殿上)	卷第四百六十(叙爵)
第三〇六冊	卷第四百六十一(撰錄春日詣一)	第三〇七冊	卷第四百六十二(撰錄春日詣二)	
第三〇八冊	卷第四百六十三(撰錄春日詣三)	第三〇九冊	卷第四百六十四(撰錄春日詣四・路上礼節)	
第三一〇冊	卷第四百六十五(回禄一)			
第三一一冊	卷第四百六十八(回禄四)	第三一二冊	卷第四百七十(追討使)	
第三一三冊	卷第四百七十一(追捕使)			
第三一四冊	卷第四百七十四(貶黜配流三)	第三一五冊	卷第四百七十六(御国忌一)	卷第四百七十七(御国忌二)
第三一六冊	卷第四百七十八(御国忌三)	第三一七冊	卷第四百八十(遺令奏并薨奏)	卷第四百八十一(望喪請暇)
第三一八冊	卷第四百八十二(贈官位一)			
第三一九冊	卷第四百八十三(贈官位二)	第三二〇冊	卷第四百八十五(詩御会一)	卷第四百八十六(詩御会二)
第三二一冊	卷第四百八十七(詩御会三)	第三二二冊	卷第四百八十九(歌御会一)	
第三二三冊	卷第四百九十(歌御会二)	第三二四冊	卷第四百九十一(歌御会三)	卷第四百九十二(歌御会四)
第三二五冊	卷第四百九十三(歌御会五)	第三二六冊	卷第四百九十五(歌御会七)	
第三二七冊	卷第四百九十六(音楽一)	第三二八冊	卷第四百九十七(音楽二)	卷第四百九十八(宴遊)
第三二九冊	卷第四百九十九(御賀一)	第三三〇冊	卷第五百(御賀二)	
第三三一冊	卷第五百一(諒闇一)	第三三二冊	卷第五百二(諒闇二)	

哭 三 礼儀類典拾遺

第三三三冊 卷第五百三(諒闇三) 卷第五百四(諒闇四)
第三三五冊 卷第五百六(諒闇六)
第三三七冊 卷第五百八(諒闇八)
第三三九冊 卷第五百十(諒闇十)
第三四〇冊 図絵卷第一(御即位調度) 図絵卷第二(礼服) 図絵卷第三(樂人装束・車)

江戸 写

第三三四冊 卷第五百五(諒闇五)
第三三六冊 卷第五百七(諒闇七)
第三三八冊 卷第五百九(諒闇九)

佐々木惣四郎(編) 蓬左 A・張府 A 縦

二五

第一冊 目錄 引書

第三冊 卷一下(女叙位・兵部省手番ほか)

第五冊 卷三(朝覲行幸・御行ほか)

第七冊 卷五(追加白馬節会一)

第九冊 卷七(御斎会・太元師法ほか)

第一一冊 卷九上(泉呂除目)

第一三冊 卷十(除目別記一)

第一五冊 卷十二上(除目別記三)

第一七冊 卷十三(除目別記四)

第一九冊 卷十五上(除目別記六)

第二一冊 卷十六(祈年祭・園井韓神祭ほか)

第二三冊 卷十八(賀茂祭)

第二五冊 卷二十上(御八講記)

第二七冊 卷二十一上(院中御八講記)

第二九冊 卷二十二(院宮御八講)

第三一冊 卷二十三下(石清水放生会)

第三三冊 卷二十五上(伊勢公卿勅使)

第三五冊 卷二十六上(御讓位)

第三七冊 卷二十七(御即位一)

第二冊 卷一上(四方拝・御供菓ほか)

第四冊 卷二(元日節会)

第六冊 卷四(白馬節会)

第八冊 卷六(追加白馬節会二)

第一〇冊 卷八(踏歌節会)

第一二冊 卷九下(泉呂除目)

第一四冊 卷十一(除目別記二)

第一六冊 卷十二下(除目別記三)

第一八冊 卷十四(除目別記五)

第二〇冊 卷十五下(除目別記六)

第二二冊 卷十七(平野祭・松尾祭ほか)

第二四冊 卷十九(孟夏)

第二六冊 卷二十下(御八講記)

第二八冊 卷二十一上(院中御八講記)

第三〇冊 卷二十三上(石清水放生会)

第三二冊 卷二十四(新嘗祭并豊明節会・豊明節会別記ほか)

第三四冊 卷二十五下(伊勢公卿勅使・初斎院)

第三六冊 卷二十六下(御讓位)

第三八冊 卷二十八(御即位二)

番 号 表 題

刊 写 年

著 者 (作 成 者)

蔵 書 印

形 態

数 量

- 第三九冊 卷二十九上(御即位三)
- 第四一冊 卷三十(明正院御即位記・即位式)
- 第四三冊 卷三十二下(大嘗会一)
- 第四五冊 卷三十二下(大嘗会二)
- 第四七冊 卷三十四(所々行幸)
- 第四九冊 卷三十六上(行幸追加上)
- 第五一冊 卷三十七上(行幸追加下)
- 第五三冊 卷三十八(御方遵行幸)
- 第五五冊 卷四十上(天皇元服・親王元服・臣下元服)
- 第五七冊 卷四十一(御書始・東宮御書始ほか)
- 第五九冊 卷四十二下(立太子・東宮御啓ほか)
- 第六一冊 卷四十四(御産)
- 第六三冊 卷四十六上(改元二)
- 第六五冊 卷四十七(改元三)
- 第六七冊 卷四十九(改元五)
- 第六九冊 卷五十一(改元七)
- 第七一冊 卷五十三(改元追加一)
- 第七三冊 卷五十五上(改元追加三)
- 第七五冊 卷五十六上(改元追加四)
- 第七七冊 卷五十七(改元追加五)
- 第七九冊 卷五十九(改元追加七)
- 第八一冊 卷六十一(改元定難陳詞下)
- 第八三冊 卷六十三上(改元元秘別録下)
- 第八五冊 卷六十四(賀茂御幸・春日御幸ほか)

- 第四〇冊 卷二十九下(御即位三)
- 第四二冊 卷三十一上(大嘗会一)
- 第四四冊 卷三十二上(大嘗会二)
- 第四六冊 卷三十三(大嘗会三)
- 第四八冊 卷三十五(行幸別記)
- 第五〇冊 卷三十六下(行幸追加上)
- 第五二冊 卷三十七下(行幸追加下)
- 第五四冊 卷三十九(遷幸所々)
- 第五六冊 卷四十下(臣下元服)
- 第五八冊 卷四十二上(立后・冊命皇后記ほか)
- 第六〇冊 卷四十三(着袴・御着帯)
- 第六二冊 卷四十五(改元一)
- 第六四冊 卷四十六下(改元二)
- 第六六冊 卷四十八(改元四)
- 第六八冊 卷五十(改元六)
- 第七〇冊 卷五十二(改元八)
- 第七二冊 卷五十四(改元追加二)
- 第七四冊 卷五十五下(改元追加三)
- 第七六冊 卷五十六下(改元追加四)
- 第七八冊 卷五十八(改元追加六)
- 第八〇冊 卷六十(改元定難陳詞上)
- 第八二冊 卷六十二(改元元秘別録上)
- 第八四冊 卷六十三下(改元元秘別録下)
- 第八六冊 卷六十五上(御讓位後初度御幸・年始行幸始ほか)

第八七冊 卷六十五下(行幸別記)

第八九冊 卷六十六下(脱履後行幸始・付序始ほか)

第九一冊 卷六十八(院号二)

第九三冊 卷七十(院号四)

第九五冊 卷七十二(院号六)

第九七冊 卷七十四(御受戒・諸寺堂供養)

第九九冊 卷七十六(撰関拝賀・隨身兵伏拝賀ほか)

第一〇一冊 卷七十八(五位職事拝賀五代記)

第一〇三冊 卷七十九下(拝賀着陣)

第一〇五冊 卷八十下(上表・臨時除目ほか)

第一〇七冊 卷八十二上(臨貶御修法・臨貶御八講)

第一〇九冊 卷八十三(天祚礼祀職掌録)

第一一二冊 卷八十五(曼荼羅供記・曼荼羅供願文)

第一一三冊 卷八十七(凶事別記)

第一一五冊 卷八十九(服暇)

第八八冊 卷六十六上(脱履後行幸始・付序始ほか)

第九〇冊 卷六十七(院号一)

第九二冊 卷六十九(院号三)

第九四冊 卷七十一(院号五)

第九六冊 卷七十三(院号七)

第九八冊 卷七十五(政官拝賀弁・侍従拝賀ほか)

第一〇〇冊 卷七十七(藏人頭拝賀并従事次第)

第一〇二冊 卷七十九上(着陣・拝賀着陣)

第一〇四冊 卷八十上(神階・親王宣旨ほか)

第一〇六冊 卷八十一(祭使装束色目・召具色目ほか)

第一〇八冊 卷八十二下(臨貶御修法・臨貶御八講)

第一一〇冊 卷八十四(詩御会・和歌御会ほか)

第一一二冊 卷八十六(凶事)

第一一四冊 卷八十八(凶事追加)

四 尾藩禁方集成(寛政一〇年成立)

* 卷一〜卷十は欠本。尾張藩の寄合医師である浅井正封らが寛政六年に藩命により編さんした医書。寛政九年に体療編が、翌一〇年に序文と残りの部分が完成した。清書は小普請御医師の山崎専三が担当。

第一冊―第一〇冊 卷十一〜卷二十(体療編十一〜二十)

第一九冊―第二八冊 卷二十九〜卷三十八(小児編)

第三五冊―第六〇冊 卷四十五〜卷七十(瘡瘍編)

第六四冊 卷七十四(鍼灸編)

寛政一〇年写

浅井正封・山崎真人(編)

蓬左A・張府B 縦

六五

一 イ(源氏物語絵巻)(田中親美複製版)

* 木箱入り。

刊年未詳

軸

三

番号表題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態 数量

四―二 (物語絵巻)(源氏物語絵巻巻下・複製版)

昭和七年発行

大和絵同好会(発行)

軸 一

*木箱入り。

四―五 (歌舞伎草紙絵巻)(初期浮世絵選集特輯・複製版)

昭和三年発行

初期浮世絵選集刊行会(発行)

軸 一

*解題冊子付き。木箱入り。

四―七 (三宝絵)(尊経閣叢刊・影印本)

昭和一〇年発行

育徳財団(発行)

蓬左 A

縦 三

*解説書付き。

四―七 (善哉童子絵巻 華嚴五十五所)(複製版)

昭和八年発行

尚古会(発行)

軸 一

五―一 史料墨宝(巻一のみ)

大正六年発行

日本史籍協会(編・発行)

蓬左 A

横・大 一

五―九 支那古器図攷

昭和七年・一二年発行

原田淑人・駒井和愛(編)
東方文化学院東京研究所
(発行)

蓬左 A

帙 二

*兵器編(昭和七年刊)と舟車馬具編(昭和一二年刊)からなり、各編とも本文冊子一冊と複数の図版によって一帙を構成する。

五―二 木曾街道六十九次(複製版)

刊年未詳

蓬左 A

折本 一

*解説書付き。

五―五 (江戸風俗浮世絵大鑑)

大正五年発行

風俗絵巻図書刊行会(発行)

蓬左 A

縦・大 三

五―三 大清広輿図(天明五年識語)

江戸後期刊

長久保玄珠(校)
版元未詳

鋪 一

*木箱入り。

五―三 (国宝成巽閣)(写真・図面集)

昭和一四年発行

侯爵前田家育徳財団(発行)

蓬左 A

縦・大 一

五―元 (陽明輝光第一輯)(真書十字文断簡ほか複製版)

昭和一四年発行

陽明文庫(発行)

蓬左 C

葉 七

*解説紙一葉付き。大型包紙入り。

吾一 三 西域考古図譜

大正四年刊

香川黙識(編)
国華社(発行)

蓬左 A

縦・大 二

吾一 四 (孝明天皇紀附図)

明治三十九年刊

吾一 四 群書治要

江戸 刊

魏徴ほか(編)

蓬左 A

縦 二四

* 卷第四・卷第十三・卷第二十は原欠。卷第三十一～卷第三十二は欠本。紙帙には「群書治要 紀州版」と記されている。

第一冊 序 卷第一(周易) 卷第二(尚書)

第二冊 卷第三(毛詩) ※卷第四は原欠

第三冊 卷第五(春秋左氏伝中) 卷第六(春秋左氏伝下)

第四冊 卷第七(礼記) 卷第八(周礼・周書・国語・韓詩外伝)

第五冊 卷第九(孝経・論語) 卷第十(孔子家語)

第六冊 卷第十一(史記上) 卷第十二(史記下)

第七冊 卷第十四(漢書一) ※卷第十三は原欠

第八冊 卷第十五(漢書三) 卷第十六(漢書四)

第九冊 卷第十七(漢書五) 卷第十八(漢書六)

第一〇冊 卷第十九(漢書七) ※卷第二十は原欠

第一一冊 卷第二十一(後漢書一) 卷第二十二(後漢書二)

第一二冊 卷第二十三(後漢書三) 卷第二十四(後漢書四)

第一三冊 卷第二十五(魏志上) 卷第二十六(魏志下)

第一四冊 卷第二十七(蜀志・呉志上) 卷第二十八(呉志下)

第一五冊 卷第二十九(晋書上) 卷第三十(晋書下)

第一六冊 卷第三十三(晏子・司馬法・孫子) 卷第三十四(老子・鶡冠子・列子・墨子)

第一七冊 卷第三十五(文子・曾子) 卷第三十六(呉子・商君子・尸子・申子)

第一八冊 卷第三十七(孟子・慎子・尹文子・莊子・尉繚子) 卷第三十八(孫卿子)

第一九冊 卷第三十九(呂氏春秋) 卷第四十(韓子・三略・新語・賈子)

第二〇冊 卷第四十一(淮南子) 卷第四十二(塩鉄論・新序)

第二一冊 卷第四十三(說苑) 卷第四十四(桓子新論・潜夫論)

第二二冊 卷第四十五(崔寔政論・仲長子昌言) 卷第四十六(申監・中論・典論)

第二三冊 卷第四十七(劉廙政論・政要論・蔣子) 卷第四十八(体論・典語)

第二四冊 卷第四十九(伝子) 卷第五十(袁子正書・抱朴子)

六一 五 群書治要

天明七年刊

魏徴ほか(編)

蓬左 A

縦 二五

* 卷第四・卷第十三・卷第二十は原欠。紙帙には「群書治要 天明版」と記されている。

第一冊 序 卷第一(周易) 卷第二(尚書)

第二冊 卷第三(毛詩) ※卷第四は原欠

第三冊 卷第五(春秋左氏伝中) 卷第六(春秋左氏伝下)

第四冊 卷第七(礼記) 卷第八(周礼・周書・国語・韓詩外伝)

旧蓬左文庫所蔵史料目録(中)

番号表題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態

数量

第五冊	卷第九(孝經・論語)	卷第十(孔子家語)	第六冊	卷第十一(史記上)	卷第十二(史記下・吳越春秋)	第一四(七九)
第七冊	卷第十四(漢書二) ※卷第十三は原欠		第八冊	卷第十五(漢書三)	卷第十六(漢書四)	
第九冊	卷第十七(漢書五) 卷第十八(漢書六)		第一〇冊	卷第十九(漢書七) ※卷第二十は原欠		
第一一冊	卷第二十一(後漢書一) 卷第二十二(後漢書二)		第一二冊	卷第二十三(後漢書三) 卷第二十四(後漢書四)		
第一三冊	卷第二十五(魏志上) 卷第二十六(魏志下)		第一四冊	卷第二十七(蜀志・呉志上) 卷第二十八(呉志下)		
第一五冊	卷第二十九(晋書上) 卷第三十(晋書下)		第一六冊	卷第三十一(六韜・陰謀・鬪子) 卷第三十二(管子)		
第一七冊	卷第三十三(晏子・司馬法・孫子) 卷第三十四(老子・鶡冠子・列子・墨子)					
第一八冊	卷第三十五(文子・曾子) 卷第三十六(呉子・商君子・尸子・申子)					
第一九冊	卷第三十七(孟子・慎子・尹文子・莊子・尉繚子) 卷第三十八(孫卿子)					
第二〇冊	卷第三十九(呂氏春秋) 卷第四十(韓子・三略・新語・賈子)	第二二冊	卷第四十一(淮南子) 卷第四十二(塩鉄論・新序)			
第二二冊	卷第四十三(說苑) 卷第四十四(桓子新論・潜夫論)					
第二三冊	卷第四十五(崔寔政論・仲長子昌言) 卷第四十六(申監・中論・典論)					
第二四冊	卷第四十七(劉廙政論・政要論・蔣子) 卷第四十八(体論・典語)					
第二五冊	卷第四十九(伝子) 卷第五十(袁子正書・抱朴子)					
六一九	関市令考	明和六年刊	神村正鄰(編)	蓬左 A・尾府 B	縦	一
			吉田四郎右衛門(版)			
六三	秘伝花鏡	安永二年刊	陳湊子(著) 小野蘭山(訳)	蓬左 A・張府 B	縦	六
			須原屋平助ほか(版)			
六二	朝鮮史料叢刊第一 高麗史節要(影印本)	昭和七年刊	朝鮮史編修会(編)	蓬左 A	縦	二四
第一冊	卷之一(太祖)		第二冊	卷之二(惠宗・定宗・光宗・景宗・成宗・穆宗)		
第三冊	卷之三(顯宗)		第四冊	卷之四(德宗・靖宗・文宗)		
第五冊	卷之七(肅宗一・睿宗一) 卷之八(睿宗二)		第六冊	卷之九(仁宗一) 卷之十(仁宗二)		
第七冊	卷之十一(毅宗)		第八冊	卷之十二(明宗一)		
第九冊	卷之十三(明宗二)					

第一〇冊	卷之十四(神宗・熙宗・康公・高宗一)	卷之十五(高宗二)	第一一冊	卷之十六(高宗三)	卷之十七(高宗四)
第二冊	卷之十九(元宗一・忠烈一)	※卷之十八は原欠カ	第三冊	卷之二十(忠烈二)	卷之二十一(忠烈三)
第四冊	卷之二十二(忠烈四)	卷之二十三(忠烈五・忠宣)	第五冊	卷之二十四(忠肅)	
第六冊	卷之二十五(忠惠・忠穆)		第七冊	卷之二十六(忠定・恭愍一)	卷之二十七(恭愍二)
第八冊	卷之二十八(恭愍三)	卷之二十九(恭愍四)	第九冊	卷之三十(辛禑一)	
第二〇冊	卷之三十一(辛禑二)		第二一冊	卷之三十二(辛禑三)	
第二二冊	卷之三十三(辛禑四)		第二三冊	卷之三十四(恭讓一)	
第二四冊	卷之三十五(恭讓二)				

四一 壹 大唐六典(官板 唐六典)

天保七年刊

元宗(著)

蓬左 A

縦

八

四一 九 家忠日記増補(家忠日記)(寛文五年自序)

江戸 写

松平忠冬(著)

蓬左 A・張府 B

縦

一二

*卷之六以降の内題は「家忠日記追加」となっている。

第一冊	序	卷之一(永正元〜弘治三年)	卷之二(永祿元〜同六年)
第二冊	卷之三(永祿七〜同一一年)	卷之四(永祿一二〜元龜三年)	
第三冊	卷之五(天正元〜同五年)	卷之六(天正六〜同九年)	
第四冊	卷之七(天正一〇年正月〜八月)	卷之八(天正一〇年九月〜同一一年)	
第五冊	卷之九(天正一二)	卷之十(天正一三〜同一七年)	
第六冊	卷之十一(天正一八年正月〜六月)	卷之十二(天正一八年七月〜同一九年)	
第七冊	卷之十三(文祿元〜慶長四年)	卷之十四(慶長五年正月〜七月)	
第八冊	卷之十五(慶長五年八月)	卷之十六(慶長五年九月〜十一月)	
第九冊	卷之十七(慶長五庚子諸国文乱記)	卷之十八(慶長六〜同一〇年)	
第一〇冊	卷之十九(慶長一一〜同一四年)	卷之二十(慶長一五〜同一六年)	
第二一冊	卷之二十一(慶長一七〜同一八年)	卷之二十二(慶長一九年正月〜一〇月)	卷三十三(慶長一九年二月〜二月)
第二二冊	卷之二十四(元和元年正月〜閏六月)	卷之二十五(元和元年七月〜正保二年)	

四一 三 家譜(寛永一八年跋)

明暦四年刊

林道春(編)

蓬左 A・張府 B

縦

七

番号表題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態

数量

山口市郎兵衛(版)

第一冊 鎌倉將軍家譜

第二冊―第三冊 京都將軍家譜

第四冊 織田信長譜

第五冊―第七冊 豊臣秀吉譜

六―六 近代諸城主次第(寛文年間)

江戸 写

蓬左A・張府B 縦

一

六―二〇 城主家替記(延宝年間)

江戸 写

蓬左A・尾府B 縦

二二

*卷第一より卷第十五の本編と卷第十六から卷第二十一までの増補部分とに分けられる。

第一冊 目録

第二冊 卷第一(山城・大和・河内・和泉・摂津)

第三冊 卷第二(伊賀・伊勢・志摩)

第四冊 卷第三(尾張・三河・遠江)

第五冊 卷第四(駿河・甲斐・伊豆・相模・武蔵)

第六冊 卷第五(安房・上総・下総・常陸)

第七冊 卷第六(近江・美濃・飛驒)

第八冊 卷第七(信濃・上野・下野)

第九冊 卷第八(陸奥)

第一〇冊 卷第九(陸奥・出羽)

第十一冊 卷第十(若狭・越前・加賀・越中・越後)

第十二冊 卷第十一(丹波・丹後・但馬・因幡・伯耆・出雲・石見・隠岐)

第十三冊 卷第十二(播磨・美作・備前・備中・備後・安芸・周防・長門)

第十四冊 卷第十三(紀伊・淡路・阿波・讃岐・伊予・土佐)

第十五冊 卷第十四(筑前・筑後・肥前・肥後)

第十六冊 卷第十五(豊前・豊後・日向・大隅・薩摩・杵岐・対馬)

第十七冊 卷第十六(大和国宇多領主ほか)

第十七冊 卷第十七(摂津国三田領主ほか)

第十八冊 卷第十八(近江国大溝領主ほか)

第十八冊 卷第十九(出羽国亀田領主ほか)

第十九冊 卷第十八(近江国大溝領主ほか)

第二〇冊 卷第二十(伊予国西条領主ほか)

第二十冊 卷第二十(但馬国豊岡領主ほか)

第二一冊 卷第二十一(伊予国西条領主ほか)

後藤光次(著)カ

蓬左A・張府A 縦

二

六―三 駿府政治録(慶長一六二〇年)

江戸 写

蓬左A・張府A 縦

六―六 当代記

江戸初期写

蓬左A・尾陽 縦

一〇

*「尾陽内庫」印は第一冊のみに押印。第六冊以降は外題が「慶長記」となっている足本である。

第一冊 卷一(永禄一一―天正四年)

第二冊 卷二(天正五―文禄三年)

- 第三冊 卷三(文祿四〇慶長一一年六月)
 第五冊 卷四下(慶長一三年五月〇二月)
 第七冊 卷六(慶長一六年)
 第九冊 卷八(慶長一八年)
- 第四冊 卷四上(慶長一一年六月〇同一年四月)
 第六冊 卷五(慶長一四〇同一年五年)
 第八冊 卷七(慶長一七年)
 第一〇冊 卷九(慶長一九〇同一年〇年)

三 元寛日記

江戸 写

蓬左 A・張府 B 縦

一二

*第九冊と第一〇冊の間に三年分の記述の欠落がある。

- 第一冊 卷之一(元和元年正月〇五月)
 第三冊 卷之三(元和元年八月〇同一年正月)
 第五冊 卷之五(元和三年四月〇同一年二月)
 第七冊 卷之七(寛永七年正月〇同一年二月)
 第九冊 卷之九(寛永一一年正月〇二月)
 第一〇冊 卷之十(寛永一五年正月〇二月) 卷之十二(寛永一六年正月〇同一年一月)
 第二冊 卷之十一(寛永一五年二月〇二月)
 第二冊 卷之十三(寛永一八年正月〇八月) 卷之十四(寛永一九年正月〇七月) 卷之十五(寛永一九年閏九月〇同一年二月)
- 第二冊 卷之二(元和元年五月〇八月)
 第四冊 卷之四(元和二年正月〇同一年四月)
 第六冊 卷之六(元和六年正月〇寛永六年一〇月)
 第八冊 卷之八(寛永九年正月〇同一年二月)

五 慶長日記増補(慶長記増補)

江戸 写

蓬左 A・張府 B 縦

五

*蓬左 A の蔵書印は第一冊のみに押印。

- 第一冊 卷第一(慶長元〇同一年)
 第三冊 卷第三(慶長一七〇同一年八)
 第五冊 卷第五(慶長一〇年)
- 第二冊 卷第二(慶長一三〇同一年六)
 第四冊 卷第四(慶長一九年)

六 寛永日記増補(享保九年成立)

江戸 写

蓬左 A・張府 B 縦

七

- 第一冊 卷第一(寛永元〇同一年)
 第三冊 卷第三〇卷第五(寛永四〇同一年六)
 第五冊 卷第八(寛永九年)
 第七冊 卷第十三〇卷第十五(寛永一四〇同一年〇年)
- 岡田正利(編)
 第二冊 卷第二(寛永三年)
 第四冊 卷第六〇卷第七(寛永七〇同一年八)
 第六冊 卷第九〇卷第十二(寛永一〇〇同一年三)

番 号 表 題

刊 写 年

著 者 (作 成 者)

蔵 書 印

形 態

数 量

六―三 廃絶録(文化一二年成立)

江戸後期写

小田彰信(著)

蓬左 A・日記所 縦

一

六―三 落穂集(享保一二年跋)

江戸 写

大道寺友山(著)

蓬左 A・張府 B 縦

二〇

第一冊 卷之第一(天文一一〜永禄一二年)

第三冊 卷之第三(天正一〇〜同三三年)

第五冊 卷之第五(天正一八年六月〜天正一九年閏正月)

第七冊 卷之第七(慶長四年正月〜三月)

第九冊 卷之第九(慶長五年正月〜八月)

第十一冊 卷之第十一(慶長五年九月)

第十三冊 卷之第十三(慶長一五〜同一九年一二月)

第十五冊 卷之第十五(慶長二〇年五月〜七月)

第十六冊 附録卷之一(御当地御城初之事ほか) 附録卷之二(御城内古来家作之事ほか)

第十七冊 附録卷之三(御鷹野先江女中方御供之事ほか) 附録卷之四(制外之事ほか)

第十八冊 附録卷之五(洪水噂之事ほか) 附録卷之六(以前大名方家風之事ほか)

第十九冊 附録卷之七(乗輿御制禁之事ほか) 附録卷之八(阿部豊後守殿御一字拝領之事ほか)

第二〇冊 附録卷之九(岡本玄治法印新知拝領之事ほか) 附録卷之十(保科中將殿之事ほか) 附録卷之十一(霊岸夜話大意之弁)

六―三 号令拔書 自宝永至享保

写年未詳

蓬左 A

縦

一

六―三 大秘録

写年未詳

蓬左 A

縦

一

六―三 薩隅日三州記

安永三年写

鬼頭兵内(編)

蓬左 A

縦

一

六―三 室町殿家式

江戸 写

蓬左 A・張府 B

縦

三

六―三 室町殿日記

江戸 写

梶村長教(編)

蓬左 A・張府 B

縦

三

六―三 御ゆとのうへの日記

江戸 写

蓬左 A・尾府 B

縦

三

*第一冊末尾に「此巻冊洪野井大納殿〔公澄卿〕御本書写之」と記されている。

第一冊 応永七〇慶長一四年(抄)
第三冊 寛永二年

九一 相中留恩記略(天保一〇年自序)

江戸後期写

第一冊 序

第三冊 卷之一(足柄上郡)

第七冊 卷之五(淘綾郡)

第二冊―第一三冊 卷之十―卷之十一(愛甲郡)

第一五冊 卷之十三(高座郡)

第三冊―第二四冊 卷之二十―卷之二十二(三浦郡)

九二 右文故事(文化一四年成立)

江戸後期写

第一冊―第三冊 御本日記附注

第七冊―第八冊 御写本譜

第一四冊―第一五冊 御代々御詩歌

七三 (昔語)(寛延二年頃成立)

寛延三年写

*著者が見聞した江戸の風俗などを後世に残すことを目的に記述したもの。

七四 康済録抄解(康済録)(寛政八年自序)

江戸後期写

*清朝で編さんされた『康済録』を摘記し注解を加えたもの。

七五 諸目印(諸大名目印)(天保年間)

江戸末期写

*幕府諸役人の提灯・合印・羽織などの目印を彩色図を添えて示したもの。

七六 古状写 自奥州到来(古状之写 自奥州到来)(建武〇観応・

江戸 写

正平年間)

七七 享保四亥年 朝鮮人廻文并乗馬小屋場留

江戸 写

旧蓬左文庫所蔵史料目録(中)

第二冊 慶長三年

福原高峰(著)

蓬左 A

縦 二五

長谷川雪堤(画)

第二冊 目録

第四冊―第六冊 卷之二―卷之四(足柄下郡)

第八冊―第一一冊 卷之六―卷之九(大住郡)

第一四冊 卷之十二(津久井県)

第一六冊―第二二冊 卷之十四―卷之十九(鎌倉郡)

第二五冊 卷之二十三(金沢)

近藤守重(著)

蓬左 A・張府 B

縦 一六

第四冊―第六冊 御本日記続録

第九冊―第一三冊 御代々文事表

第一六冊 慶長勅版考

財津種爽(著)

蓬左 A

縦 一

人美泰(著)

蓬左 A・張府 B

縦 二

蓬左 A

縦 一

蓬左 A

縦 一

蓬左 A・尾府 A

縦 一

一九(八四)

番 号 表 題	刊 写 年	著 者 (作 成 者)	蔵 書 印	形 態	数 量
七―三 天和二戊 朝鮮人來聘御馳走留	江戸 写		蓬左 A・尾府 A	縦	一
七―四 天和二戊 朝鮮人帰国廻文留	江戸 写		蓬左 A・尾府 A	縦	一
七―五 天和二戊 朝鮮人下り廻文留	江戸 写		蓬左 A・尾府 A	縦	一
七―六 朝鮮人御馳走懸人別調下	江戸 写		蓬左 A・尾府 A	縦	一
七―七 (宝曆十四甲申 朝鮮通信使一行座目)	江戸 写		蓬左 A・尾府 A	縦	一
七―八 天和二戊 朝鮮人來聘宿割留	江戸 写		蓬左 A・尾府 A	縦	一
七―九 明暦元未 朝鮮人來聘泊留	江戸 写		蓬左 A・尾府 A	縦	一
七―〇 明暦元未 朝鮮人來聘留	江戸 写		蓬左 A・尾府 A	縦	一
七―一 明暦元未 朝鮮人來聘之節七五三留	江戸 写		蓬左 A・尾府 A	縦	一
七―二 (朝鮮通信総録)	江戸 写	新井君美(編)	蓬左 A・張府 A	縦	一〇
第一冊 卷一(丁未・丁巳・甲子・丙子・癸未・壬戌書簡)		第二冊 卷二(己亥・戊辰・甲申書簡 己亥朝儀)			
第三冊 卷三(丁未・丁巳・甲子・丙子・癸未・乙未・壬戌朝儀)		第四冊 卷四(丙子・癸未・乙未・壬戌・己亥・戊辰・甲申雜記)			
第五冊 卷五(正徳辛卯紀事 白石預之)		第六冊 卷六(戊辰・甲申朝儀)			
第七冊 卷七(延喜以來書簡通交 使臣姓名)		第八冊 東韓事略・同国紀事・白雲覺書・太閤征韓			
第九冊 三先生筆談		第一〇冊 対州書簡贈答			
七―三 朝鮮物語 付柳川始末(朝鮮物語)	江戸 写	林春斎(著)	蓬左 A・邸中	縦	一
七―四 朝鮮賦	正徳二年刊		蓬左 A・張府 B	縦	一
七―五 朝鮮人來聘新儀・同附録	文化一三年写		蓬左 A	縦	二

*第二冊の末尾に「此書御小納戸頭取木部茂十郎模寄を以密々借用いたし候由、尤広く相成候儀ハ不可然旨ニ而指出候付、内々写置候」という貼紙あり。

㊦―㊦ 〔朝鮮人御餐応七五三膳部図〕 文化七年写 蓬左 A 縦 一

㊦―㊦ 朝鮮人来朝記 延享五年写 蓬左 A・張府 B 縦 一

㊦―㊦ 拾遺柳宮秘鑑 江戸 写 菊池弥門〔著〕 蓬左 A 縦 五

㊦―㊦ 〔日本産物志 信濃部〕 明治一〇年刊 伊藤圭介〔著〕 榊原芳野〔校補〕 文部省〔発行〕 蓬左 A 縦 二

* 昭和八年一〇月三日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

㊦―㊦ 〔日本産物志 武蔵部・山城部〕 明治六年刊 伊藤圭介〔著〕 文部省〔発行〕 蓬左 A 縦 四

㊦―㊦ 致富小記〔天保一五年自序〕 明治一四年刊 佐藤信淵〔著〕 寅賓楼〔版〕 蓬左 A・徳川 縦 一

㊦―㊦ 勸農備要 田畯年中〔行事 天保一〇年自序〕 明治一〇年刊 佐藤信淵〔著〕 島村泰〔補有〕 鄰堂〔版〕 蓬左 A 縦 一

㊦―㊦ 種樹秘要〔文化六年自序〕 明治一四年刊 佐藤信淵〔著〕 寅賓楼〔版〕 蓬左 A・徳川 縦 一

㊦―㊦ 堤防溝洫志〔安永九年成立〕 明治九年刊 佐藤信淵〔著〕 名山閣〔版〕 蓬左 A 縦 四

* 昭和八年一月二六日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

㊦―㊦ 物品識名・同拾遺 文化六・文政八年刊 岡林清達・水谷豊文〔編〕 永楽屋東四郎〔版〕 蓬左 A 縦 四

㊦―㊦ 農具便利論 文政五年刊 大蔵常永〔著〕 河内屋源七郎ほか〔版〕 蓬左 A・徳川 縦 三

㊦―㊦ 草木育種 文化一五年刊 岩崎常正〔著〕 山城屋佐兵衛〔版〕 蓬左 A 縦 二

㊦―㊦ 草木育種後編〔天保八年序〕 江戸後期刊 阿部喜任〔著〕 蓬左 A 縦 二

旧蓬左文庫所蔵史料目録〔中〕

番 号 表 題

刊 写 年

著 者 (作 成 者)

蔵 書 印

形 態

数 量

㊦―三 本朝食鑑(元禄五年自序)

元禄一〇年刊

山城屋佐兵衛(版)
大野必大(著)
平野屋勝左衛門ほか(版)

蓬左 A・徳川 縦

一二

第一冊 序 総目 凡例 卷之一(水・火・土部・穀部之一)

第三冊 卷之三(菜部)

第五冊 卷之五(禽之一・禽之二)

第七冊 卷之七(鱗部之一)

第九冊 卷之九(鱗部之三)

第二冊 卷之十一(獸・畜部)

㊦―四 農家益

享和二年刊

大蔵常永(著)
中川五兵衛ほか(版)

蓬左 A・徳川 縦

三

㊦―四 農家益統編

嘉永七年刊

大蔵常永(著)
河内屋太助ほか(版)

蓬左 A 縦

二

㊦―四 七種若菜考

江戸 写

阿部照任(著)

蓬左 A 縦

一

㊦―四 砂糖製作記

寛政九年刊

木村喜之(著)
出雲寺和泉掾(版)

蓬左 A・徳川 縦

一

㊦―五 水産図解

明治二三年刊(活版)

藤川三溪(著)
井上神港堂(発行)

徳川 縦

二

㊦―五 植櫨考(天保一五年序)

嘉永七年写

花山亭高一(著)

蓬左 A・徳図記 縦

一

㊦―五 国産考(「広益国産考」(天保一五年跋)

明治 刊

大蔵常永(著)
前川善兵衛(版)

蓬左 A・徳図記 縦

八

㊦―五 農政座右(文政二二年自序)

明治一〇年刊(活版)

小宮山昌秀(著)
東崖堂(発行)

蓬左 A・徳川 縦

三

*「水戸先哲叢書」のうち。

㊦―五 農家矩

明治一三年刊

織田完之〔著〕
寅賓楼〔版〕

蓬左A・徳川 縦

三

㊦―六 種樹園法〔天保一四年自序〕

明治九年刊

佐藤信淵〔著〕
牧野吉兵衛〔版〕

蓬左A・徳川 縦

三

㊦―三 土性弁〔享保九年自序〕

明治六年刊

佐藤信景〔著〕
寅賓楼〔版〕

蓬左A・徳図記 縦

三

㊦―三 培養秘録〔文化一四年序〕

明治六年刊

佐藤玄明〔著〕
寅賓楼〔版〕

蓬左A・徳図印 縦

四

㊦―四 農諭〔きん用心〕〔文化二年跋〕

写年末詳

鈴木正長〔著〕

蓬左A・徳図記 縦

一

㊦―五 飢饉年之食物・飢饉セサル心得・一切毒消・時疫之藥
同防法〔飢饉年ノ食物外三項〕〔天保八年成立〕

明治二六年写

小野職孝〔著〕
玉山堂〔版〕
カ

蓬左A・徳図記 縦

一

㊦―七 救荒野譜啓蒙

天保一三年刊
カ

小野職孝〔著〕
玉山堂〔版〕
カ

蓬左A・徳蔵記 縦

一

㊦―六 救荒本草啓蒙

天保一三年刊

小野職孝〔著〕
玉山堂〔版〕

蓬左A・徳蔵記 縦

四

㊦―九 勸農叢書 除蝗録後編〔天保一五年成立〕

明治一九年刊

大蔵常永〔著〕
有隣堂〔版〕

蓬左A・徳図記 縦

一

㊦―七 菜譜〔諸菜譜〕〔正徳四年成立〕

文化一二年刊

貝原信篤〔著〕
山中善兵衛ほか〔版〕

蓬左A・徳川 縦

三

㊦―七 製葛録

文政一三年刊

大蔵常永〔著〕
河内屋長兵衛ほか〔版〕

蓬左A・徳川 縦

一

㊦―三 〔名家画譜 草名集〕

文政五（一〇）年刊

大鶴庵塊翁〔著〕

蓬左A 縦

三

番号表題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態

数量

*秋之部(文政五年刊)・夏之部(文政六年刊)・春冬之部(文政一〇年刊)の三冊からなる。

四一三 (農家必用 耕作大益伝)

天保一〇年刊

中山忠道(著)
丸屋善兵衛ほか(版)

蓬左A・徳川

縦

一

四一四 朝鮮人参耕作記(人参耕作記)(宝暦一三年自序)

江戸 写

田村元雄(著)

蓬左A・尾府B

縦

一

四一五 民間備荒録

明和八年刊

建部三省(著)
須原屋市兵衛(版)

蓬左A・張府A

縦

二

四一六 民家日用 広益秘事大全(嘉永四年自序)

江戸末期刊

三松館主人(著)
山城屋佐兵衛(版)

蓬左A・徳図記

縦

五

四一七 蝦夷紀事(元文年間成立)

江戸 写

蓬左A・張府B

縦

二

四一八 (田弾国初渡船御朱印写・交趾国渡海船図)(慶長・元和)

江戸 写

蓬左A・日記所

折本

一

四一九 中臣被(中臣被抄)

江戸前期写

御本

縦

一

*徳川義直直筆。

四二〇 三川記(三河記 御草稿)

江戸前期筆

徳川義直(筆)

縦

一五

*第一冊に「十六号御箱 尊 三河記十五冊」という下ケ札あり。

第一冊 卷一 (大相国御先祖事 付龍瑞事ほか)

第二冊 卷二 自天文八年己亥至弘治元年乙卯(次郎三郎殿流浪事 付内膳正押領之事ほか)

第三冊 卷三 自弘治二年庚寅至永禄六年癸亥(家康公御元服事 付復帰岡崎城事ほか)

第四冊 卷四 自永禄七年甲子至元龜元年庚午十二月(取長沢城事 付氏真出張事ほか)

第五冊 卷五 自元龜三年壬申至天正五年丁丑(信玄出張事 付本多平八郎働事ほか)

第六冊 卷六 自天正六年戊寅至同十一年癸未(上杉謙信逝去事 付北条・武田不和事ほか)

第七冊 卷七 自天正十一年癸未六月至同十三年乙酉十二月(秀吉卿与信雄確執事ほか)

三五一八 (成功記 片仮名)

- 第八冊 卷八 從天正十四年丙戌至慶長五年庚子春(家康公与秀吉公和睦結婚事ほか)
- 第九冊 卷九 慶長五年自春至秋(上杉景勝謀反事ほか)
- 第一〇冊 卷十 自慶長庚子九月至十二月(家康公美濃表御進発事ほか)
- 第一一冊 卷十一 自慶長六年辛丑至同十五年庚戌(京都置三奉行事ほか)
- 第一二冊 卷十二 自慶長十六年辛亥春至同十九年癸未春(大御所御上洛事ほか)
- 第一三冊 卷十三 (大坂怪異事 付秀頼逆謀事ほか)
- 第一四冊 卷十四 (大坂又企謀叛牟人群集事ほか)
- 第一五冊 卷十五 自元和乙卯至同三年丁巳(武家諸法度事ほか)

江戸 写

徳川義直(著)

蓬左 A

縦 一八

*木箱入り。木箱には「御太切 甲 六番 式箱之内」と記された貼紙あり。このほか享和元年一月「源敬様御自撰御書物 御原本目録」、年次未詳「御自撰御書物校合名前」の二通を収納した鍵箱(御太切 甲 拾四番)と書かれた貼紙ありを付す。

- 第一冊 一(御伝 信光取安城城事ほか)
- 第二冊 二(竹千代殿流浪事ほか)
- 第三冊 三(源君御元服事ほか)
- 第四冊 四(氏真出張事ほか)
- 第五冊 五(上野中務大輔使節事ほか)
- 第六冊 六(源君安土饗応事ほか)
- 第七冊 七(秀吉卿与信雄確執事ほか)
- 第八冊 八(源君与秀吉和睦 付婚姻事ほか)
- 第九冊 九(秀吉公征伐三韓事ほか)
- 第一〇冊 十(日本勢重人朝鮮事ほか)
- 第一一冊 十一(八幡霊夢事并太閤薨逝遺言事ほか)
- 第一二冊 十二(源君与利家不和事ほか)
- 第一三冊 十三(源君美濃表御進発事ほか)
- 第一四冊 十四(割与城々事ほか)
- 第一五冊 十五(朝鮮人重来朝事ほか)
- 第一六冊 十六(大久保相模守蒙罪事ほか)
- 第一七冊 十七(大坂又企逆謀事ほか)
- 第一八冊 十八(武家諸法度事ほか)

三五一二 (軍書萃言)

江戸 写

徳川義直(著)

縦・小 一

*「十五号御箱 尊 軍書萃言巻冊」と書かれた下ケ札あり。

三五一二 (軍書合鑑)

江戸 写

徳川義直(著)

縦 一

*木箱入り。木箱には「老部第八十九号」と記された貼紙あり。本体には「七号御箱 尊 軍書合鑑一冊」と書かれた下ケ札あり。尾張家家臣による写。旧蓬左文庫所蔵史料目録(中)

番号表題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態

数量

三三―三 軍證志

江戸 写

徳川義直(著)

縦

三

* 木箱入り。木箱に「忝部第八十八号」と記された貼紙あり。第一冊には「十五号御箱尊軍證志三冊外ニ證軍一部三冊」と書かれた下ケ札あり。

三五―四 成功記(真名本)

江戸 写

徳川義直(著)

蓬左 A

縦

一八

* 木箱入り。木箱には「忝部第八十六号」と記された貼紙あり。第一冊には「十四号御箱尊成功記十八冊」と書かれた下ケ札あり。

第一冊 卷第一(通代 信光拔安城ほか)

第二冊 卷第二(広忠周流ほか)

第三冊 卷第三(源君首服ほか)

第四冊 卷第四(氏真出兵於東参川ほか)

第五冊 卷第五(将軍義昭卿使上野中務大輔賜書於信玄ほか)

第六冊 卷第六(安土饗源君ほか)

第七冊 卷第七(甲州兵起ほか)

第八冊 卷第八(参州兵与真田戦ほか)

第九冊 卷第九(秀吉征朝鮮ほか)

第一〇冊 卷第十(日本兵再入朝鮮ほか)

第十一冊 卷第十一(八幡霊夢ほか)

第十二冊 卷第十二(源君与利家不和ほか)

第十三冊 卷第十三(源君抵美濃ほか)

第十四冊 卷第十四(頒城地於諸将并帝都置所司代ほか)

第十五冊 卷第十五(朝鮮使復来朝ほか)

第十六冊 卷第十六(竄大久保忠隣并大坂怪異并片桐出奔ほか)

第十七冊 卷第十七(大坂再起兵ほか)

第十八冊 卷第十八(武家法制ほか)

三六―一 神祇宝典御草稿図

正保三年頃筆カ

徳川義直(著)

軸

二

* 「御撰述神祇宝典図」と記された貼紙あり。一二五―二六から一二五―二二まで一括して木箱入り。

三五―一六 神祇宝典彙

正保三年頃筆

徳川義直(著)

縦

六

* 第一冊の冒頭に「御撰述 御草稿 神祇宝典六冊」と書かれた紙片がはさみ込まれている。

三五―一九 敬公遺事

江戸末期写

田宮翼(著)

蓬左 A

縦

二

* 外題は「敬公遺事攬要」となっているが「攬要」の字が墨消しされている。

三五―二〇 敬公ヨリ瑞公江御遺誠

江戸 写

徳川義直(著)

張府 B

縦

一

* 別題「敬公遺戒」。

三五―二三 御年譜

江戸前期写

徳川義直(著)

縦

一

*紙帙に「御年譜 御類本一冊」という墨書あり。

二六― 一 (徳川慶恕日記)

天保一〇〜文久元
年筆

徳川慶恕〔筆〕

盛斎・子忠・朝
政士 縦

二九

*第一冊〜第三冊に「維新史1」、第一四冊〜第二五冊に「維新史2」、第二六冊に「維新史3」、第二七冊に「維新史4」、第二八冊に「維新史6」、第二九冊に「維新史7」のラベルあり。なお慶恕は、万延元年(一八六〇)九月に慶勝と改名している。

第一冊 (天保一〇年)

第二冊 (天保一一年)

第三冊 (天保一二年・同二三年)

第四冊 (天保一四年・同一五年)

第五冊 (弘化二年)

第六冊 (弘化三年)

第七冊 (弘化四年・同五年)

第八冊 (嘉永二年)

第九冊 (嘉永四年)

第一〇冊 (嘉永五年・同三年)

第一一冊 (嘉永六年・同七年正月〜三月)

第一二冊 (嘉永七年八月〜十二月)

第一三冊 (安政二年)

第一四冊 (安政三年正月)

第一五冊 (安政三年二月)

第一六冊 (安政三年三月)

第一七冊 (安政三年四月)

第一八冊 (安政三年五月)

第一九冊 (安政三年六月)

第二〇冊 (安政三年七月)

第二一冊 (安政三年八月)

第二二冊 (安政三年九月)

第二三冊 (安政三年一〇月)

第二四冊 (安政三年十一月)

第二五冊 (安政三年十二月)

第二六冊 (安政四年)

第二七冊 (安政五年正月〜七月)

第二八冊 (万延元年七月〜十二月)

第二九冊 (文久元年正月〜二月)

二六― 二 (徳川慶勝日記)

明治五〜一〇年筆

徳川慶勝〔筆〕

縦

三

*「維新史8」のラベルあり。

第一冊 日誌 徳川慶勝(明治五年七月〜同六年四月)

第二冊 (日記 明治五年八月〜同七年三月)

第三冊 日録 月堂扣(明治七年五月〜同一〇年二月)

二六― 三 (徳川慶勝雜記)

明治八〜一三年筆

徳川慶勝〔筆〕

模柳園・月堂・縦
盛斎

一四

旧蓬左文庫所蔵史料目録(中)

二七(九二)

番号表題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態

数量

*「維新史140」のラベルあり。

第一冊 日誌(明治八年六月〜八月)

第三冊 日誌二号(明治一〇年一月〜同一年七月)

第五冊 日誌第三号(明治一三年三月〜同一年二月)

第七冊 十五国立銀行留記第二号(明治二年一月〜二月)

第九冊 宗族中会館ヨリ報告留記(明治一〇年二月〜同一年三月)

第一一冊 (茶席・居所等間取図帳 明治一一年二月)

第一三冊 (至来物・返礼覚帳 明治一一年一月〜同一年三月)

第二冊 (日誌 明治八年八月〜同九年二月)

第四冊 日誌第二号(明治一一年七月〜同一年三月)

第六冊 十五国立銀行留記第一号(明治一〇年二月〜同一年二月)

第八冊 十五国立銀行留記第三号(明治一二年二月〜同一年三月)

第一〇冊 麝香之間申合留記第一号(明治一〇年二月〜同一年三月)

第一二冊 年中行事(明治一三年一月〜二月)

第一四冊 群禽獲留(明治一〇年一月〜同一年二月)

二六―四 (備忘帖)

文久二年筆

徳川慶勝(筆)

軸

一

二六―五 (応接備忘)

安政五〜六年筆

徳川慶恕(筆)

軸

三

*第三軸の外題は「備忘帳」となっている。「維新史9」のラベルあり。

二六―六 (日録用要)

嘉永五〜安政元年筆

徳川慶恕(筆)

縦

一

*嘉永五年二月より同六年正月まで、嘉永六年四月より六月まで、安政元年七月より八月までの記事を収める。「維新史18」のラベルあり。

二六―七 (斎一静日記)

江戸末期筆

徳川慶勝(筆)

縦

一

日々新・盛斎・
子忠・朝政士

*七月一七日より八月二八日までの記事を収める。「維新史5」のラベルあり。

二六―八 覚書

文久三〜元治元年筆

徳川慶勝(筆)

縦

二

*文久三年一月より元治元年正月までの記事を収める。「維新史67」のラベルあり。

二六―九 御用留

明治五年筆

徳川慶勝(筆)

縦

一

*六月五日より八月一〇日までの記事を収める。「維新史74」のラベルあり。

二六―一〇 再御上京 御用留

文久二年筆

徳川慶勝(筆)

縦

一

*八月二五日より九月八日までの記事を収める。「維新史27」のラベルあり。

二六―二 公辺御用留記

文久三年筆

徳川慶勝〔筆〕

縦 一

*五月一〇日より六月一九日までの記事を収める。「維新史26」のラベルあり。

二六―三 〔文公紀事略〕

明治 写

縦 五

*第一冊は巻一と巻二の順序が逆に綴られている。「維新史46」のラベルあり。

第一冊 文公紀事略二〔安政五〕元治元年五月〕 文公紀事略一〔例言・目次・文政七〕安政四年〕

第二冊 文公紀事略三〔元治元年七月〕慶応二年〕 第三冊 文公紀事略四〔慶応三〕明治一七年〕

第四冊 紀事略附録上〔楠社造立建議・二条城受取ほか〕 第五冊 紀事略附録下〔東海道出兵 附江城受取・奥州進軍ほか〕

二六―三 慶勝公履歴附録〔明治一七年自跋〕

明治 写

長谷川敬〔著〕

縦 一

*「維新史36」のラベルあり。

二六―五 茂栄公・義宜公御履歴

明治 写

縦 一

二六―六 〔藩主歴代事略〕

写年未詳

縦 一

*初代義直より一三代慶臧までの尾張藩主の閱歴・事蹟を記したもの。

二六―七 源恪公履歴附録〔明治一七年自跋〕

明治 写

長谷川敬〔著〕

縦 一

二六―八 従一位様御事歴続〔従一位様御事略〕

明治 写

縦 一

*徳川慶勝に関する明治七年より同一六年までの事蹟を記したもの。

二六―九 三位公紀事略

明治 写

縦 一

*記事の訂正・追加などを指示した付箋が多数付されている。

二六―二〇 三位様御事歴調下〔三位様御事歴調〕

明治 写

縦 一

二六―二一 顕樹公・靖公紀事略〔顕樹公・三位公紀事略〕

明治 写

縦 一

二六―二二 御年譜〔東照宮御年譜〕〔正保三年自序〕

写年未詳

徳川義直〔著〕

縦 一

*天文一一年より元和三年までの記事を収める。明治三三年の平岩元輔による朱書訂正あり。

旧蓬左文庫所蔵史料目録〔中〕

番 号 表 題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態 数量

二六―三 〔大保以降 系譜関係記事録〕

明治七年頃写

縦 一

二六―四 姦徒誅戮扣〔姦徒誅戮〕

明治 写

縦 一

二六―五 事蹟書附録 斬姦筆記

明治 写

縦 一

二六―六 〔徳川家御花押集〕

江戸末期写

縦 一

* 將軍家(家茂まで)および尾張徳川家当主(茂栄までの)花押を書き写したものの。

二六―七 〔千村平右衛門家来北越出征記要并人名録〕

明治 写

縦 一

* 〔千村平右衛門家来北越出征記要并人名録〕〔久野賢宗経歴〕〔正気隊越後国戦争之始末〕〔正気隊北越戦争日誌〕〔正気隊四士之碑〕〔北越従征記〕の六種を合綴したもの。

二六―元 筆花墨林〔筆華墨林〕

安政二年筆

徳川慶恕〔筆〕

盛斎・子忠・朝政士 縦 八

二六―三 〔文林拾葉〕

文久元年筆カ

徳川慶勝〔筆〕

源慶勝 縦 三

二六―三 〔読書余筆探索録〕

江戸末期筆

徳川慶勝〔筆〕

盛斎・子忠 縦 二

* 〔盛斎随筆〕(第一冊)と〔読書余筆探索録〕(第二冊)からなる。

二六―四 〔春靄紀行〕

嘉永四年筆

徳川慶恕〔筆〕

盛斎・子忠 縦 一

二六―五 〔真菅家集〕

江戸末期筆

徳川慶勝〔筆〕

縦 一

二六―六 詩集〔詩稿〕

嘉永四年筆

徳川慶恕〔筆〕

源慶恕・盛斎・子忠 縦 一

二六―元 盛斎詩集〔詩集〕

弘化年間筆

松平義恕〔筆〕

縦 二

二六―四 四季歌

安政三年筆

徳川慶恕〔筆〕

縦 一

二六―四 〔春夏秋冬之歌〕

江戸末期筆カ

徳川慶勝〔筆〕

盛斎・子忠 縦 一

* 自詠の和歌の短冊を貼り込んだもの。

二六―四 〔春夏之部〕〔自詠和歌集〕

江戸末期筆

徳川慶勝〔筆〕

縦 一

二六―四 (大和歌) (上京中雜記帳) 江戸末期筆 徳川慶勝(筆) 縦 一

二六―四 春秋夏冬歌 年次未詳 徳川慶勝(筆) 縦 二

二六―四 (東海道道中記) 江戸末期筆 徳川慶勝(筆) 盛斎・子忠 縦 一

* 江戸へ下向した際の休所・宿所や到着時刻・献上品などを記す。一部には宿所の間取図や眺望図を添えている。

二六―四 以呂波録 万延元年筆 徳川慶勝(筆) 縦 一

* 「いろは」の早見録。

二六―四 (印章) (尾張徳川家江戸屋敷蔵書印譜) 江戸末期写 縦 一

* 「市谷有之部」「戸山有之部」「市谷御讓部」に種別して蔵書印を示したものの。

二六―五 (神君ヨリ崇源院様へ御文ノ写) 写年未詳 縦 一

二六―五 (西上記) 文久二〜三年筆 徳川慶勝(筆) 縦 二

* 文久二年二月より同三年一〇月までの記事を収める。「維新史24」のラベルあり。

二六―五 祝融防禦之手当(祝融防禦) 江戸末期筆 徳川慶勝(筆) 盛斎 縦 一

* 江戸で火災が起こった際の心得方や避難方法を示したものの。「維新史60」のラベルあり。

二六―五 (公辺・尾張・三卿方御系譜) 嘉永五年筆 徳川慶恕(筆) 盛斎・子忠 縦 一

二六―五 (世統一世紀) 江戸末期筆 徳川慶勝(筆) 縦 一

* 嘉永四年より安政五年までの記事を収める。「維新史39」のラベルあり。

二六―五 (尾張支流系譜) 嘉永五年筆 徳川慶恕(筆) 盛斎・子忠 縦 一

二六―五 (雲上明鑑) 安政五年写 盛斎・子忠 縦 一

* 徳川慶恕による写。

二六―五 婦民録 江戸末期写 縦 一

* 徳川慶勝による写。「維新史70」のラベルあり。

旧蓬左文庫所蔵史料目録(中)

番号表題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態

数量

二六―六

合衆国願書之儀ニ付御存慮之趣公辺江御進達相成候御
草案(御尋ニ付建白書)

嘉永六年筆

徳川慶恕(筆)

盛斎・子忠

縦

一

*「維新史57」のラベルあり。

二六―六

海防手引草(嘉永六年成立)

安政二年写

肝付兼武(著)

盛斎・子忠

縦

一

*徳川慶恕による写。「維新史63」のラベルあり。

二六―三

内々申出(防禦一卷)(嘉永三年成立)

嘉永四年写

伊藤三十郎(著)

盛斎・子忠

縦

一

*徳川慶恕による写。「維新史52」のラベルあり。

二六―三

〔浮世有様〕

江戸末期筆

徳川慶勝(筆)

縦

一

*嘉永から安政にかけての諸書付や風説・落書などを書き留めたもの。「維新史62」のラベルあり。

二六―四

〔諸品新聞書〕

江戸末期筆

縦

四

*舶来品・兵器の図面・外国人の絵などを貼り込んだもの。本来は五巻より成っていたと推定されるが巻四は現存しない。「維新史145」のラベルあり。

二六―五

倫敦新聞紙抄訳 日本使節華盛頓ニ着スル記并日本通
用貨幣論

万延元年写

縦

一

*徳川慶勝による写。

二六―六

梅樹五出実記(五出実記)

安政二年写

縦

一

*尾張藩邸内にある梅樹の本数・梅干漬込樽数の留書。

二六―七

〔拾字〕

江戸末期写

縦

一

二六―六

春栄(謡本)

写年未詳

縦

二

二六―六

黄白備忘(御側金覚帳)

安政元〜三年筆

徳川慶恕(筆)

縦

一

*「維新史61」のラベルあり。

二六―七

〔写真帖〕

年次未詳

縦

一

* 徳川慶勝が撮影したものと思われる一一点の写真が貼り込まれているが、劣化のため写真は像を留めていない。

三六―七 諸品見出〔諸品見出帳〕 江戸末期筆 徳川慶勝〔筆〕 縦 一

* エレキテル・清朝図絵・枕時計など諸品を列举して通し番号を付したものの。

三六―八 不尋録 江戸末期筆 徳川慶勝〔筆〕カ 縦 一

* 江戸の書肆や商家の名前を記し、各店舗ごとに品名を列举したもの。多くの品名の上部または下部に朱筆で丸印が付されている。

三六―九 〔御側 御書物目録〕 江戸末期筆 縦 二

三六―一〇 目録〔御側御書物目録〕 江戸末期筆 縦 一

三六―一一 〔諸覚留記〕〔銀行番割覚書留記ほか〕 明治 筆 徳川慶勝〔筆〕 縦 一

* 「維新史75」のラベルあり。

三六―一二 〔晴雨及出勤簿〕 明治一四四年筆 徳川慶勝〔筆〕 縦 一

* 「維新史76」のラベルあり。

三六―一三 〔奇言録〕 江戸末期筆 徳川慶勝〔筆〕 盛斎・子忠 縦 二

三六―一四 〔場発日記〕 安政元一二年筆 縦 一

三六―一五 覚書〔鷹覚書〕 安政四年頃筆 縦 一

三六―一六 諸鳥留〔諸禽留記〕 江戸末期筆 徳川慶勝〔筆〕 縦 一

三六―一七 〔百無遺場并小禽獲留記〕 江戸末期筆 徳川慶勝〔筆〕 縦 一

* 「維新史167」のラベルあり。

三六―一八 百無淡水獭帳〔淡水百無古尾地獲記〕 安政二年筆 徳川慶恕〔筆〕 縦 一

三六―一九 場発獲留記〔淡水留記〕 嘉永七年筆 徳川慶恕〔筆〕 縦 一

三六―二〇 魚獵留 写年未詳 縦 一

番 号 表 題

刊 写 年

著 者 (作 成 者)

蔵 書 印

形 態

数 量

二六―七 〔檀木ノ覚書〕

江戸末期筆

* 市ヶ谷邸・戸山邸・尾州下庭分・城下などに植えられた檀に関する留書。

二六―八 〔御城書々抜〕

嘉永六〇安政三年筆

徳川慶恕〔筆〕

縦

* 〔維新史58〕のラベルあり。

二六―九 張州日録

嘉永五年筆

徳川慶恕〔筆〕

盛斎・子忠

縦

* 嘉永四年三月より同五年三月までの記事収める。〔維新史17〕のラベルあり。

二六―一〇 〔春夢録〕

嘉永七年筆

徳川慶恕〔筆〕

縦

* 〔当今之ケ条〕など全九か条を徳川斉昭に対して示したもの。

二六―一一 〔第十一ケ条目御草稿〕

江戸末期筆

徳川慶勝〔筆〕

縦

* 〔維新史71〕のラベルあり。

二六―一二 〔存慮之趣〕

嘉永五年筆

徳川慶恕〔筆〕

盛斎・子忠

縦

* 〔維新史53〕のラベルあり。

二六―一三 機密之一条

〔壬子春正月十七日中山江英舶渡来一件薩厘書面写〕〔嘉永五年〕

江戸末期写

松平薩摩守〔著〕

縦

〔留書〕

* 徳川慶勝による写。〔維新史54〕のラベルあり。

二六―一四 諸事留〔隠殿用向留〕

文久二年筆

徳川慶勝〔筆〕

日々新・盛斎B
・子忠B

縦

* 本文は二丁(六月一〇日・五月七日・六月三日・六月一四日の記事)のみ。〔維新史25〕のラベルあり。

二六―一五 阿蘭陀機密風説書

嘉永五年写

* 〔別段風説書〕「当子阿蘭風説」の二点を収める。徳川慶恕による写。〔維新史55〕のラベルあり。

二六―一六 勤向書留〔勤書〕

弘化三〇嘉永二年筆 松平義恕〔筆〕

縦

* 松平義恕(のちの徳川慶恕)が尾張徳川家を相続する以前に記したもの。「維新史20」のラベルあり。

二六―六 (徳川慶恕手翰并来状留)

嘉永四〜六年筆

徳川慶恕〔筆〕

縦 三

二六―九 (留記)手翰・来状留

嘉永五〜安政二年筆

徳川慶恕〔筆〕

縦 七

* 「維新史31」のラベルあり。

二六―一〇〇 (徳川慶恕手翰)

安政元年筆

徳川慶恕〔筆〕

軸 三

* 「留記」(二二六―九九)第二冊に貼り込まれた書簡を軸装したもの。安政元年十一月と推定される禄制改革・土風一新に関するもの二軸と、同時期に書かれたと思われる伊賀少将宛の書簡下書一軸からなる。

二六―一〇二 (徳川慶勝手留)

徳川慶勝〔筆〕

榎柳園・月堂

縦 二〇

* 「維新史174」のラベルあり。

第一冊 銀行留記一(明治一〇年四月〜五月)

第二冊 銀行留記二(明治一〇年五月〜六月)

第三冊 十五国立銀行留記三(明治一〇年六月〜八月)

第四冊 十五国立銀行留記四(明治一〇年八月〜十二月)

第五冊 麝香之間申合書誌一(明治一〇年四月〜六月)

第六冊 麝香之間簿記(明治一〇年六月〜十一月)

第七冊 麝香之間番割簿記(明治一〇年六月〜七月)

第八冊 日々雑誌一(明治九年一月〜一〇月)

第九冊 日々雑誌二(明治九年三月〜同一一〇年三月)

第一〇冊 日々雑誌三(明治一〇年四月〜五月)

第一一冊 日々雑誌四(明治一〇年五月〜七月)

第一二冊 番号有之書面誌一(十五国立銀行関係 明治一〇年七月まで)

第一三冊 番号有之書面誌二(十五国立銀行関係 明治一〇年七月〜十二月)

第一四冊 紙幣請取証書(十五国立銀行関係 七月〜八月)

第一五冊 金庫鍵一(十五国立銀行関係 八月)

第一六冊 金庫鍵二(十五国立銀行関係 五月〜九月)

第一七冊 銀行紙幣請取証書記(明治一〇年五月〜七月)

第一八冊 銀行出局覚書(五月〜一〇月)

第一九冊 宗族中事務録(明治九年一〇月〜同一一〇年八月)

第二〇冊 調印覚書(十五国立銀行関係 明治一〇年五月〜六月)

二六―一〇三 御家伝調下

明治初年写

縦 一

* 徳川義直より徳川慶勝(明治四年まで)に至る事蹟を記したもの。多数の訂正・補記が施されている。

二六―一〇五 筆花墨林

写年未詳

徳川慶勝〔筆〕

縦 三

番 号 表 題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態 数量

二六―一〇六 〔敵帚帖〕

天保一五年写

徳川慶恕〔筆〕

折本 一

二六―一〇七 御紀行下書〔御紀行〕

嘉永四年筆

徳川慶恕〔筆〕

縦 一

二六―一〇八 夢醒〔黒船渡来に関する狂歌・雑俳集〕

江戸末期写

縦 一

* 狂歌・雑俳のほか「滑稽新形織本」「御場台詩」「嘉永六丑九月伊勢守殿老女衆江御達書」を収める。徳川慶勝による写。

二六―一〇九 〔雑詩〕

天保一〇年筆

松平義恕〔筆〕

縦・小 一

二六―一一 〔自詠漢詩・和歌集〕

年次未詳

徳川慶勝〔筆〕

折本 一

二六―一二 〔自詠漢詩・和歌集〕

年次未詳

徳川慶勝〔筆〕

榎柳園・月堂

折本 三

二六―一三 詠草〔詩歌群集〕

年次未詳

徳川慶勝〔筆〕

横 一

二六―一四 〔清雅帖〕

写年未詳

縦 一

二六―一五 〔詩集〕

年次未詳

徳川慶勝〔筆〕

縦 二

二六―一六 〔詩作必携〕

年次未詳

徳川慶勝〔筆〕

縦・小 一

二六―一八 〔自詠和歌集〕

明治 筆

徳川慶勝〔筆〕

縦 一

二六―一九 歌集

明治一〇年筆

徳川慶勝〔筆〕

縦 一

二六―二〇 月次御歌会兼題

年次未詳

徳川慶勝〔筆〕

折本 一

二六―二三 〔自詠漢詩・和歌集〕

文久二年筆

徳川慶勝〔筆〕

折本 二

* はば同内容のもの二冊からなる。

二六―二三 群芳帖

年次未詳

折本 一

* 押し花の標本集。

二六―二三 〔群虫真景〕

年次未詳

折本 一

*虫類の彩色図および標本からなる。

二六―二四 (自詠和歌集)

年次未詳

徳川慶勝〔筆〕

横

一

二六―二五 千世のかたみ(明治一八―二七年)

明治 写

徳川矩子〔著〕

縦

二

*徳川慶勝夫人矩子(準子)による日光・名古屋・伊香保・京都などへ赴いた際の紀行日記。

二六―二六 松のおち葉(自詠和歌集)

明治 写

徳川矩子〔著〕

縦

二

二六―二七 慶勝卿御筆小色紙和歌

年次未詳

徳川慶勝〔筆〕

縦

一

*徳川慶勝が詠んだ和歌の小色紙を貼り込んだもの。一二六―一二八とともに「従一位様・貞徳院様御筆物」と記された畳紙に収納されている。

二六―二八 (寄歌)

年次未詳

徳川矩子〔筆〕

縦

一

二六―二九 (故従三位公御詩作)

明治 写

徳川義宜〔著〕

縦

二

二六―三〇 (故従三位公御歌)

明治 写

徳川義宜〔著〕

縦

二

二六―三二 (炮術当分附)

嘉永三―六年筆

徳川慶恕〔著〕

縦

一

*「維新史48」のラベルあり。

二六―三五 (紫宸殿・清涼殿図)

江戸末期筆

徳川慶勝〔著〕

鋪

一

*天盃頂戴の手順を朱書している。

二六―三六 (宝生流舞付)

年次未詳

徳川慶勝〔筆〕

横

二

*蔵書印はすべて第二冊のみに押印してある。

二六―三七 (宝生流謡曲)

年次未詳

徳川慶勝〔筆〕

横

一

二六―三八 (謡曲廻順)

年次未詳

徳川慶勝〔筆〕

横

一

二六―三九 写真陰像留書

文久二年筆

徳川慶勝〔筆〕

横

一

*表紙に「文久壬戌秋新改スル写真之人物留葉ヲ製造シタリ、陽像ハ別帳ニ題行スルノ事也」と記されている。

旧蓬左文庫所蔵史料目録(中)

番号表題

刊写年

著者・作成者

蔵書印

形態 数量

二六―四〇 分配覚(分配覚書)

安政二年頃筆

徳川慶恕〔筆〕

縦 一

* 諸侯・家臣に対する鳥の贈答の様子を示したものと推測される。

二六―四二 (諸道具戸山運送帳)

江戸末期筆

徳川慶勝〔筆〕

横・大 一

二六―四三 菓子帳

年次未詳

徳川慶勝〔筆〕

縦 一

* 「維新史208」のラベルあり。

二六―四三 小禽帳

安政四年筆

徳川慶恕〔筆〕

縦 一

二六―四四 押上鴨獲覚書

明治一五年頃筆

徳川慶勝〔筆〕

縦 一

二六―四五 備忘録

明治初年筆

徳川慶勝〔筆〕

横 一

* 「維新史10」のラベルあり。

二六―四六 備忘誌

明治二、四年筆

徳川慶勝〔筆〕

縦 七

* 第六冊の内題は「藩知事手留」、第七冊の内題は「知事手留」となっている。「維新史30」のラベルあり。

二六―四七 備忘

江戸末期筆

横 一

* 二冊を合綴したもの。「維新史22」のラベルあり。

二六―四八 太政必携・備忘帳

明治初年筆

徳川慶勝〔筆〕

縦・小 三

二六―四九 備忘縮図・行事

明治一一年筆

徳川慶勝〔筆〕

縦 二

* 典礼・行事などの部屋の間取りや人の配置を示したもの。「維新史140」のラベルあり。

二六―五〇 新聞書

江戸末期筆

徳川慶勝〔筆〕

縦 二

* 文久二年より慶応三年までの記事を収める。「維新史142」のラベルあり。

二六―五一 (覚書)

(建議書等書留・前後欠)

安政五年筆

徳川慶恕〔筆〕

縦 一

* 「維新史23」のラベルあり。

二六―一五 対照書札 年次未詳 徳川慶勝〔筆〕 折本 一

二六―一六 (公尾御旗印^(ママ)旗印) 安政二年写 横 二

* 徳川慶恕による写。「維新史149」のラベルあり。

二六―一五 行所必携(雜記帳) 弘化三ノ嘉永二年筆 松平義恕〔筆〕 横 一

二六―一五 (必携)〔宝生流謡書拔〕 年次未詳 徳川慶勝〔筆〕 横 一

二六―一五 献上留〔諸品留〕 年次未詳 徳川慶勝〔筆〕 横 一

二六―一五 (富国濫觴)〔櫛木繁植之儀ニ付〕 安政二年筆 徳川慶恕〔筆〕 状 二

* 「富国濫觴」と書かれた包紙とも。

二六―一五 (各月覚留) 年次未詳 鋪 一

二六―一六 三家部屋着座之図 江戸写 鋪 一

二六―一六 (新書物) 年次未詳 宝善亭〔筆〕 鋪 一

二六―一六 尾張国本丸縮図 江戸写 鋪 一

二六―一六 (家老・奥向・御側用人・御用人・御目付・三奉行)〔分限帳〕 文久年間筆カ 折本 一

二六―一五 (書留)〔公边出仕留) 天保一三ノ弘化二年 松平義恕〔筆〕 縦 一

* 松平義恕(のちの徳川慶勝)が尾張徳川家を相続する以前に記したもの。

二六―一六 櫛木略説・平準講仕法・蓋徹問答 江戸末期写 縦 一

二六―一七 角館ヨリ御建白写(嘉永八年) 江戸末期写 縦 一

* 徳川慶勝による写。

二六―一六 西洋舶半裁図解 江戸末期写 鋪 一

旧蓬左文庫所蔵史料目録(中)

番号表題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態 数量

三六―一六 〔笛譜〕

写年未詳

横・小 二

三六―一七 従一位慶勝公履歷附録〔源恪公履歷附録〕

明治一七年写

長谷川敬(著)

縦 一

三六―一八 献貢品物目録〔貢献目録〕

江戸末期写

縦 一

* 安政元年二月にアメリカ合衆国使節が幕府へ贈った品々を記したもの。

三六―一九 菩烏児動氏製晴雨計儀図説

江戸末期写

縦 一

三六―二〇 諸国馬出所地名并野馬焼印之覚〔馬出所地名〕〔天保五年成立〕

天保一五年写

縦 一

* 「維新史156」のラベルあり。

三六―二一 〔新聞・上申書綴〕〔風聞密々申上書其外雑記〕

慶応三年写

縦 二

* 「維新史144」のラベルあり。

三六―二二 内密書付〔渡辺半十郎行状其外風説之儀ニ付〕

江戸末期筆

縦 一

* 「維新史28」のラベルあり。

三六―二三 内密書〔並墨利加船渡来ニ付〕

安政元年筆

縦 一

* 「維新史29」のラベルあり。

三六―二四 〔浦賀表へ異国船渡来一件〕〔嘉永六〇安政元年〕

江戸末期写

縦 一

三六―二五 〔海防策〕〔異国船渡来ニ付〕

江戸末期写

縦 一

* 「維新史64」のラベルあり。

三六―二六 〔烈公書翰写〕〔嘉永五〇安政元年〕

江戸末期写

縦 一

* 「維新史15」のラベルあり。

三六―二七 歩兵退散風説書

慶応三年筆

蓬左 A

縦 一

二六―一八 市中風聞書 慶応三年筆 縦 一

* 歩兵屯集の様子を中心に江戸市中の風聞を書き上げたもの。

二六―一八 秦壽活論 江戸末期筆 縦 一

* 「維新史66」のラベルあり。

二六―一六 亜美理駕書翰弁駁・秦世壽論説〔亜美理駕書翰弁駁〕 江戸末期写 縦 一

二六―一七 〔和蘭密告〕 江戸末期写 縦 一

二六―一八 長防討手之諸侯 旌旗之図〔長防討手之諸侯旌旗図〕 慶応元年写 縦 一

二六―一八 〔田中国之輔上書〕 江戸末期筆 縦 一

二六―一九 〔丹羽淳太郎上書〕 江戸末期筆 縦 一

二六―一九 〔舞鶴原望富峯〕 明治 画カ 徳川慶勝〔画〕 朝政士 縦 一

二六―一九 格段御内々定式御上物 江戸 筆 横 一

* 「維新史68」のラベルあり。

二六―一五 〔阿風説〕〔嘉永五年成立〕 江戸末期写 横 一

黒田長溥〔著〕

二六―一六 唐国広西表兵乱一件〔英人〕 江戸末期写 横 一

二六―一七 探索之趣申上候書付〔探索の趣申上候書付〕〔猿島・富 江戸末期写 縦 一

津辺埋立之風聞ニ付・嘉永六年〕

二六―一九 〔師崎内外〕〔海域絵図〕 江戸末期写 縦 一

二六―一九 〔師崎図〕〔海域測量図〕 江戸末期筆 縦 一

二六―二〇 鷹出所地名附〔鷹出所帳〕 江戸 写 折本 一

* 「維新史162」のラベルあり。

二六―二三 〔新聴紙〕〔風聞書付留〕 文久三〜慶応三年筆 縦 一

梅柳図

旧蓬左文庫所蔵史料目録〔中〕

番号表題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態

数量

*内密探索によって得られた情報を報告した「風聞書付」や「内密書」を順不同で綴じ込んだもの。第二冊～第六冊・第九冊～第一〇冊の外題は「新聞紙」、第七冊～第八冊の外題は「新聞書」となっている。「維新史143」のラベルあり。

二六―三五 諸品新聞留(写真影鏡秘伝)

慶応元年頃筆

徳川慶勝(筆)

縦 一

二六―三六 旧習一新記(写真薬品調査寛帳)

文久二年筆

徳川慶勝(筆)

縦 一

二六―三〇 (第十五国立銀行創立関係書)

明治 写

縦 一八

*半紙判紺色表紙の第一冊～第六冊と美濃判簡易装丁の第七冊～第一八冊からなる。前者には「維新史172」、後者には「維新史171」のラベルあり。

第一冊 十五国立銀行創立録一

第二冊 第十五国立銀行創立録第一冊とほぼ同内容のもの

第三冊 十五公立銀行創立録(第一冊に続くもの)

第四冊 第十五国立銀行創立証書

第五冊 社幣

第六冊 紙幣

第七冊 第十五国立銀行創立願

第八冊 第十五国立銀行定款案

第九冊 第十五国立銀行定款

第一〇冊 第十五国立銀行定款

第一一冊 第十五国立銀行申合規則

第二二冊 第十五国立銀行書類 番号有之部ヲ誌

第一三冊 第十五国立銀行創立録 無号之二

第一四冊 出納表

第一五冊 仮役員書

第一六冊 雑録

第一七冊 宗族中事務録

第一八冊 示談書

二六―三三 (麝香之間簿記 自明治六年)

明治六～一一年筆

徳川慶勝(筆)

縦 一

二六―三三 (松平義建上書写)(嘉永六年)

江戸末期写

縦 一

*徳川慶勝による写と推定される。

二六―三三 (歌集)

年次未詳

徳川慶勝(筆)カ

縦 一

二六―三四 春秋和歌

安政三年筆

徳川慶恕(筆)

縦 一

二六―三五 (詠草)(自詠和歌集)

年次未詳

徳川慶勝(筆)

状 二二

*「詠草」と記された包紙とも。

二六―三六 〔鷹之鳥帳〕 安政四年筆

二六―三七 御直書本箱初目錄〔慶勝公御直書目錄〕 明治 写

二六―三六 〔参勤割心得方之儀ニ付達書并規式書写〕〔文久二年〕 江戸末期写

*徳川慶勝による写。「幕朝御変革」と記された包紙とも。

二六―三六 紅葉山神靈記〔嘉永五年序〕 江戸末期写

二六―三六 〔慶勝卿御撮影写真原版〕 年次未詳

二七―二 人見私記〔元禄年間成立〕 寛政元年写

*幕府御小性組人見又七郎による写。

第一冊 序 台徳公西城記〔寛永八〜九年〕

第三冊 大猷公記〔寛永一九〜正保四年〕

第五冊 徹有公記〔慶安四年六月〜寛文三年〕

第七冊 常憲公記〔延宝八年七月〜元禄二年〕

第九冊 附録一 二田録 桜田記〔慶安五年八月〜万治三年〕

第二冊 附録三 二田録 桜田記〔寛文一一〜延宝八年〕

第三冊 附録五 二田録 神田記〔慶安五年九月〜天和三年閏五月〕

二七―九 岩淵夜話〔享保初年成立〕 江戸 写

二七―一〇 岩淵夜話別集〔巖淵夜話別集〕 江戸 写

二七―一五 御先祖記〔徳川御先祖記〕 江戸中期写

*「尾藩神邸恭敬斎蔵」印あり。神邸正鄰旧蔵書。

二七―一六 〔御遺訓・同附録〕 寛延元年写

*徳川家康の遺訓と称される逸話を収めたもの。

旧蓬左文庫所蔵史料目録〔中〕

鷹掛小性役〔筆〕 縦 一

縦 一

状 二

縦 一

枚 四

縦 一三

人見求〔編〕 張府B 縦 一三

第二冊 大猷公記〔寛永一〇〜一八年〕

第四冊 大猷公記〔正保五〜慶安四年八月〕

第六冊 徹有公記〔寛文四〜延宝八年八月〕

第八冊 常憲公記〔元禄三〜一二年〕

第一〇冊 附録二 二田録 桜田記〔万治四〜寛文一〇年〕

第二冊 附録四 二田録 桜田記〔延宝九〜元禄一六年〕

大道寺友山〔著〕 尾府B 縦 一

大道寺友山〔著〕 張府B 縦 二

尾府B 縦 四

張府A 縦 二

番号表題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態

数量

二七―二五 (神君御文・御条目百ヶ条)

江戸末期写

縦

一

* 「神君々台徳院様之御台様江被進候御文之写」「有徳院様御側洪谷隠岐守殿江承台命之趣」「御条目百箇条」の三種を収める。

二七―二六 源敬公御別伝(元禄八年跋)

江戸写

並河子建(著)

縦

一

二七―二三 (御当家御法諡記)(元禄年間)

江戸写

尾府A

縦

一

二七―二四 続岩淵

江戸写

近松茂矩(著)

蓬左A・尾府A

縦

二

* 「続岩淵 乾坤全」という外題の第一冊と「続岩淵坤」と記された第二冊からなる。第二冊は第一冊の前半の一部と後半の一部の内容を収めているが、両者の間には著しい異同が見られる。

二七―二四 (性高院様御伝記)

江戸写

邸中

縦

一

* 「性高院様御伝記」(元禄一三年)・「高原院様御道の記」(寛永一〇年)・「高岳院ニ有之候御書伝証記」(元禄一〇年)・「源敬公御行状」(元禄八年)・「御宝訓」・「松井甫水上書覚書写」(元禄七年)の六種を収める。

二七―二四 相応院様御事蹟集録

江戸写

縦

一

* 徳川義直の生母於亀之方(相応院)に関する記事を諸書から書き抜いたもの。

二七―二四 (源懿公御記行)

写年未詳

徳川齊荘(著)

蓬左A

縦

一

* 「夏の日国に帰るの記」「岐阜の道しるへ」(いずれも天保一四年成立)の二種を収める。

二七―二四 臥龍遺事(安永五年跋)

昭和八年写

近松茂矩(著)

縦

一

* 伊藤為吉所蔵の近松茂矩自筆本より鈴木義彦が謄写した旨の奥書あり。

二七―二五 (泰心院・源傳公・俊恭婦人御行状)

江戸後期写

縦

一

* 「泰心院源誠公御行状」(宝永五年序・成田次充編・河村秀時補)・「源傳様御行状」(天保一〇年・矢部典勝著)・「俊恭様御行状」の三種を収める。

二七―二五 (源順様・源欽様御言行)

江戸末期写

縦

一

* 「(源順様御行状)」(嘉永三年・大島六右衛門著)・「欽公美録」の二種を収める。

二七―二六 (源誠公御行状・源傳公御行状・貞順婦人御行状)

江戸後期写

日記懸

縦

一

*収録内容は二七―五一と同じ。

二七―六 蓬左城編年大略

江戸 写

縦 一

*別題「編年大略」。元和六年より元禄一三年までの記事を収める。昭和九年一月三日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

二七―六 編年大略

江戸 写

縦 六

*別題「蓬左城編年大略」。

第一冊 慶長五〜寛永九年

第二冊 寛永一〇〜慶安三年

第三冊 慶安三〜万治三年

第四冊 万治四〜寛文一二年

第五冊 寛文二三〜貞享四年

第六冊 貞享五〜元禄一四年

二七―七 昔咄(卷十三後編のみ)

刊年未詳(活版)

近松茂矩(編)

蓬左 A

縦 一

二七―七 (御家伝)(尾張徳川家)

明治 写

縦 二

*第一冊は慶長五年より慶応四年八月まで、第二冊は慶応四年八月より明治八年までの記事を収める。

二六―六 大坂夏御陣御先手勤方覚書(元和先鋒録)

江戸 写

藤堂高文(著)カ

縦 五

*後装の紙帙に記された表題は「大坂夏陣覚書」。本編三冊と余録二冊からなる。

二六―五 (明公遺事)(天保五年自序)

江戸 写

清原重臣(著)

尾府 A

縦 三

*第九代尾張藩主徳川宗睦に近侍した著者が後年になって逸話をまとめたもの。

二六―三 (三河記)

江戸 写

縦 一〇

*徳川義直の著作である「三河記」とは別種のもの。

第一冊 卷之一(新田・足利両家起りの事)

第二冊 卷之二(尾州勢三州乱入井田合戦之事ほか)

第三冊 卷之三(安部大蔵太輔忠義の事ほか)

第四冊 卷之四(酒井将監岡崎を立退信秀安祥責ほか)

第五冊 卷之五(大高城攻義元兵糧入評義の事ほか)

第六冊 卷之六(岡部五郎兵衛長教忠勇働之事ほか)

第七冊 卷之七(一ノ宮御後結軍の事ほか)

第八冊 卷之八(五畿内江州軍松平勘四郎武勇の事ほか)

第九冊 卷之九(浅井・朝倉密談の事ほか)

第一〇冊 卷之十(徳川・織田・浅井・朝倉勢揃之事ほか)

二六―元 (御宝訓)

江戸 写

徳川義直(著)

縦 一

番 号 表 題

刊 写 年

著 者 (作 成 者)

蔵 書 印

形 態

数 量

二六―三 初学文宗(慶安三年成立)

宝暦一〇年写

徳川義直(著)

縦

一

*延宝七年の並河主軒による転写本を宝暦一〇年に天野景忠が書き写したものと推定される。

二六―七 初学文宗(慶安三年成立)

大正二年写

徳川義直(著)

縦

一

*八代六郎による写。昭和八年二月二日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

二六―六 〔初学文宗 校合本〕(慶安三年成立)

大正二年写

徳川義直(著)

縦

一

*植松安による写。昭和八年七月二日付「蓬左文庫蔵本」の貼紙あり。

二六―四 〔戸山御屋敷絵図〕

江戸 写

鋪

一

*題簽に「荒木忠吉献上」と記されている。

二六―四 〔山さ戸御伝記〕

慶応元年写

横

一

*毛受照意による写。

二六―五 章善院様御一代記事

大正六年筆

奥村定(編)

縦

一

*徳川宗春の閏歴についてまとめたもの。

二六―五 〔章善院様御話之次第〕(享保一七年)

嘉永二年写

縦

一

*徳川宗春が幕府より三か条の詰問を受けた際の返答の内容をまとめたもの。

二六―五 戸山御屋敷御取立以来伝聞之記(和田戸山伝聞之記)

江戸 写

水谷友右衛門(著)

縦

一

(寛延二年成立)

二六―五 〔和田戸山之伝記〕

江戸 写

縦

一

二六―五 〔戸山御庭之記〕

文政一三年写

縦

一

*見返しに「文政十三庚寅閏三月写之、原本御小納戸ニ在之」と記されている。

二六―六 〔戸山枝折〕

文政七年筆

土居清健(著)

縦

一

二六―三 章善院殿ノ事蹟

明治三三年写

默堂居士(著)

縦

二

日記所

縦

一

邸中

縦

一

邸中

縦

一

邸中

縦

一

蓬左 B

縦

二

* 中京新報に黙堂居士と号する記者が執筆した連載記事を静堂居士と称する人物が転写したもの。

二六―三 [章善院様御子様方] (徳川宗春子女系図)

江戸 写

縦 一

二六―六 [温知政要] (享保一六年自序)

江戸 刊

徳川宗春(著)
版元未詳

縦 一

二六―七 [敬正二祖雜記] (天明二年成立)

江戸中期写

河村秀頼(編)

尾陽

縦 二六

第一冊 敬公御序

第二冊 諸家雜記

第三冊 大明一揆

第四冊 朝鮮来聘事類

第五冊 釈典式

第六冊 寺社縁起事類

第七冊 自慶長十六年至廿年御年譜

第八冊 神道事類

第九冊 日光事類

第一〇冊 君戒

第一一冊 幕府親戚位記・口宣

第一二冊 堂上事類(一)

第一三冊 堂上事類(二)

第一四冊 堂上事類(三)

第一五冊 古牋類纂(一)

第一六冊 古牋類纂(二)

第一七冊 古牋類纂(三)

第一八冊 古牋類纂(四)

第一九冊 古牋類纂(五)

第二〇冊 古牋類纂(六)

第二一冊 古牋類纂(七)

第二二冊 軍記抜粹(一)

第二三冊 軍記抜粹(二)

第二四冊 軍記抜粹(三)

第二五冊 軍記抜粹(四)

第二六冊 軍記抜粹(五)

二六―三 類聚日本紀(正保三年自序)

正保三年筆

徳川義直(著)

尾陽・尾府A

縦 七〇

* 「尾陽内庫」の蔵書印は第一冊・第六七冊のみに押印。第二冊〜第六八冊・第六八冊〜第七〇冊には尾府Aが用いられている。

第一冊 序 卷第一(神代上)

第二冊 卷第二(神代下)

第三冊 卷第三(神武天皇) 卷第四(自綏靖天皇至開化天皇)

第四冊 卷第五(崇神天皇) 卷第六(垂仁天皇)

第五冊 卷第七(景行天皇・成務天皇) 卷第八(仲哀天皇) 卷第九(功神皇后)

第六冊 卷第十(応神天皇) 卷第十一(仁徳天皇) 卷第十二(履中天皇・反正天皇)

旧蓬左文庫所蔵史料目録(中)

四七(一一)

番号表題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

形態

数量

第七冊	卷第十三(允恭天皇・安康天皇)	卷第十四(雄略天皇)			
第八冊	卷第十五(自清寧天皇至仁賢天皇)	卷第十六(武烈天皇)	卷第十七(繼体天皇)	卷第十八(安閑天皇・宣化天皇)	
第九冊	卷第十九(欽明天皇)	卷第二十(敏達天皇)			
第一〇冊	卷第二十一(用明天皇・崇峻天皇)	卷第二十二(推古天皇)	卷第二十三(舒明天皇)		
第一一冊	卷第二十四(皇極天皇)	卷第二十五(孝德天皇)			
第一二冊	卷第二十六(斉明天皇)	卷第二十七(天智天皇)	卷第二十八(天武天皇上)		
第一三冊	卷第二十九(天武天皇下)		第一四冊	卷第三十(持統天皇)	
第一五冊	卷第三十一(卷第三十三(文武天皇)		第一六冊	卷第三十四(卷第三十六(元明天皇)	
第一七冊	卷第三十七(卷第三十九(元正天皇)		第一八冊	卷第四十(卷第四十二(聖武天皇)	
第一九冊	卷第四十三(卷第四十五(聖武天皇)		第二〇冊	卷第四十六(卷第四十七(聖武天皇)	
第二一冊	卷第四十八(卷第五十(孝謙天皇)		第二二冊	卷第五十一(卷第五十三(廢帝)	
第二三冊	卷第五十四(卷第五十五(廢帝)		第二四冊	卷第五十六(卷第五十八(高野天皇)	
第二五冊	卷第五十九(卷第六十(高野天皇)		第二六冊	卷第六十一(卷第六十二(光仁天皇)	
第二七冊	卷第六十三(卷第六十四(光仁天皇)		第二八冊	卷第六十五(卷第六十六(光仁天皇)	
第二九冊	卷第六十七(卷第六十八(桓武天皇)		第二九冊	卷第六十九(卷第七十(桓武天皇)	
第三一冊	卷第七十一(卷第七十二(桓武天皇)		第三二冊	卷第七十三(卷第七十四(桓武天皇)	
第三三冊	卷第七十五(卷第七十六(桓武天皇)		第三四冊	卷第七十七(卷第七十八(平城天皇)	
第三五冊	卷第七十九(卷第八十(嵯峨天皇)		第三六冊	卷第八十一(卷第八十二(嵯峨天皇)	
第三七冊	卷第八十三(卷第八十四(嵯峨天皇)		第三八冊	卷第八十五(嵯峨天皇)	卷第八十六(淳和天皇)
第三九冊	卷第八十七(卷第八十八(淳和天皇)		第四〇冊	卷第八十九(卷第九十(淳和天皇)	
第四一冊	卷第九十一(卷第九十四(仁明天皇)		第四二冊	卷第九十五(卷第九十七(仁明天皇)	
第四三冊	卷第九十八(卷第百(仁明天皇)		第四四冊	卷第百一(卷第百三(仁明天皇)	
第四五冊	卷第百四(卷第百七(仁明天皇)		第四六冊	卷第百八(卷第百十(仁明天皇)	
第四七冊	卷第百十一(卷第百十三(文德天皇)		第四八冊	卷第百十四(卷第百十七(文德天皇)	

第四九冊	卷第百十八〜卷第百二十(文徳天皇)	第五〇冊	卷第百二十一〜卷第百二十三(清和天皇)	軸	一
第五一冊	卷第百二十四〜卷第百二十五(清和天皇)	第五二冊	卷第百二十六〜卷第百二十七(清和天皇)		
第五三冊	卷第百二十八〜卷第百二十九(清和天皇)	第五四冊	卷第百三十〜卷第百三十一(清和天皇)		
第五五冊	卷第百三十二〜卷第百三十三(清和天皇)	第五六冊	卷第百三十四〜卷第百三十五(清和天皇)		
第五七冊	卷第百三十六〜卷第百三十八(清和天皇)	第五八冊	卷第百三十九〜卷第百四十二(清和天皇)		
第五九冊	卷第百四十三〜卷第百四十六(清和天皇)	第六〇冊	卷第百四十七〜卷第百四十九(清和天皇)		
第六一冊	卷第百五十〜卷第百五十三(陽成天皇)	第六二冊	卷第百五十四〜卷第百五十六(陽成天皇)		
第六三冊	卷第百五十七〜卷第百六十(陽成天皇)	第六四冊	卷第百六十一〜卷第百六十四(陽成天皇)		
第六五冊	卷第百六十五〜卷第百六十七(光孝天皇)	第六六冊	卷第百六十八〜卷第百七十(光孝天皇)		
第六七冊	神代系図	第六八冊	帝王系図(自神武天皇至光仁天皇)		
第六九冊	帝王系図(自桓武天皇至村上天皇)	第七〇冊	帝王系図(自冷泉院至後陽成院)		

二三―一 棧軒記〔御別号記〕 宝暦四年筆 須賀安貞〔筆〕 軸 一

*木箱入り。木箱にはこのほか「点付」と記された包紙入りの「棧軒記」訓点付きが収められている。またこの包紙には「廿五号御箱 尊 御別号記巻」と書かれた下ケ札がある。

二三―三 〔東照宮御行状〕 寛永一三年筆 上乗院僧正珍祐〔筆〕 軸 一

二三―七 〔尾張八郡図〕 江戸 写 鋪 八

*木箱入り。

第一鋪	愛智郡	第二鋪	春日井郡
第三鋪	丹羽郡	第四鋪	葉栗郡
第五鋪	中島郡	第六鋪	海東郡
第七鋪	海西郡	第八鋪	知多郡

二三―四 〔孝世子伝・孝世子御年譜・孝世子附録〕 安永三年写 縦 一

*木箱入り。「孝世子伝」は人見泰の、「孝世子附録」は神合隆利の著作。孝世子とは徳川宗睦の長子治休(安永二年没)を指す。「十七号御箱 尊 孝世子御年譜一冊」と書かれた下ケ札あり。

番 号 表 題

刊 写 年

著 者 (作 成 者)

蔵 書 印

形 態 数 量

三九―二五 尾陽侯源誠公潜飛録(泰心公御年譜上)

江 戸 写

縦 一

* 二九―一六とともに木箱入り。題簽の「御年譜」とある部分が朱筆で「潜飛録」と訂正されている。「十九号御箱 尊 泰心公御年譜(潜飛録と訂正)上 一冊・円覚院公潜飛録二冊 合三冊」と書かれた下ケ札あり。

三九―二六 尾陽侯吉通公潜飛録(吉通公潜飛録)

江 戸 写

縦 一

三九―二七 源誠公御嘉言善行(御嘉言善行)(元禄一三年自跋)

江 戸 写

千村重治(著)

縦 一

* 木箱入り。「第拾八号 尊 泰心院公御嘉言善行一冊」と書かれた下ケ札あり。

三九―三 楽々園記并詩 付楽々園図(天保四年序)

江 戸 写

嘉貞(著)

縦・鋪 二

* 木箱入り。「楽々園図」を付す。「箱四百拾九番 楽々園記并詩・同図二冊 内折本一冊」と書かれた下ケ札あり。

三九―三

御代々様御初御家ニテ御法事等御執行被為仕候御霊ノ御逝去年月日及御墓所(御代々様御初御日並帳)

明 治 写

縦 一

* 木箱入り。

三九―三

〔御遺誠〕

写 年 未 詳

縦 一

* 木箱入り。徳川義直より光友へ与えたとされる遺誠の写二部(同内容)を合綴したもの。「第拾号 尊 源敬公ヨリ瑞龍院様エ御遺誠一冊」と書かれた下ケ札あり。木箱には「源孝様御筆」とある。

三九―七

〔諄辞〕(故従三位徳川義宣公御百箇日祭祝詞)

明 治 九 年 筆

状 一

* 木箱入り。包紙とも。木箱に「旧日記所本乙 故従三位様御百箇日祭諄辞壹枚 第百三番」と書かれた貼紙あり。

三九―三

〔長崎之絵図〕

江 戸 写

鋪 一

* 二九―三四とともに木箱入り。袋とも。袋には「十号御箱 大切内 長崎図二折」という貼紙あり。もともとは二鋪であったと推測されるが、現在は貼り合わされて一鋪となっている。

三九―四

〔蝦夷地并異国境絵図〕(天明八年成立)

江 戸 写

古川古松軒(編)

鋪 二

* 「十号御箱 大切内 蝦夷地并異図二折」と書かれた貼紙あり。

三九―四

〔源敬公御徳儀〕

明 和 年 間 写 本

松井甫水(著)

縦 一

*近松茂矩の転写本(宝暦一三年写)をもとに門人の加藤雅辰が写したもの。「五号御箱 尊源敬公御德儀一冊」と書かれた下ケ札あり。

三九一 三 御境目之城下模寄之筋并濃州・信州之御領分其外所々 江戸 写 横 一

吟味之場所(変事之節御手当御座候而可然場所見聞ニ付)

*一二九一五二一五五は、まとめて木箱に収められている。

三九一 三 尾州之内吟味之場所(変事出来候節御人数差扣之場所 江戸 写 横 一

等概見聞ニ付)

三九一 三 〔御国並御境目之城図〕 江戸 写 鋪 一三

*包紙入り。

第一鋪 目錄 第二鋪 勢州桑名城之図

第三鋪 勢州長島城之図 第四鋪 勢州安濃津城之図

第五鋪 三州岡崎城之図 第六鋪 三州吉田城之図

第七鋪 三州西尾之図 第八鋪 三州田原之図

第九鋪 三州荏屋之図 第一〇鋪 濃州大垣城之図

第一一鋪 濃州加納城之図 第二鋪 濃州岩村之図

第一三鋪 志州鳥羽之図

三九一 三 〔濃州横山筋・板取筋之図〕 江戸 写 鋪 三

*包紙入り。目錄および「濃州大野郡乙原横山筋之図」「濃州武儀郡洞戸板取筋之図」からなる。

三九一 三 武州豊島郡江戸庄之図(寛永年間) 江戸 刊 鋪 一

三九一 三 〔夷松前之図〕 延享元年写 鋪 一

*尾州名古屋本町の呉服商松前屋伝兵衛が所持していた絵図を書き写したもの。

三九一 三 〔相川銀山岡山絵図〕 江戸 写 鋪 一

*袋入り。

三九一 三 〔佐渡国絵図〕 江戸 写 鋪 一

旧蓬左文庫所蔵史料目録(中)

番 号 表 題

刊写年

著者(作成者)

蔵書印

五二二一七
形態

数量

*包紙入り。小型の絵図。

二五〇六四三〔他国山方角絵図〕

江戸 写

*包紙入り。佐渡島から見える本土の山の名前と湊の位置を示したもの。

二五〇六四五〔関八州絵図〕

*関八州の国境・郡境と主要な往還・宿場を記したもの。

二五〇六七二〔戸山荘詩歌〕

江戸 写

張府 A

縦

一

二五〇六八九 木曾八景〔木曾路八景詩歌〕(延享二年成立)

江戸 写

張府 A

縦

一

二五〇六二六 砦場所〔尾張領内要害地書上・寛政六年〕

江戸 写

*表紙に「二丁之御箱入」という朱筆あり。

縦

一

二五〇六二七 御城下固場所・御曲輪近辺締場所(寛政六年)

江戸 写

*表紙に「式之御箱入」という朱筆あり。

縦

一